

りゅうおうのおしごと！RTA 最年少タイトル奪取チャート

ぺたんこ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

姉弟子からタイトルを略奪するRTA、はーじまーるよー。

今回プレイするゲームは、『りゅうおうのおしごと！ コレカラ』になります。

オリ主ちゃんは、無事に姉弟子からタイトルを奪えるのでしょうか？ ご覧ください。
い。

なお、りゅうおうのおしごと！ RTA で検索しても姉弟子AA（アスキーアート）作成RTAしかヒットしなかったので、私が世界一位です。

b i i m兄貴やb i i m兄貴をリスペクトをする兄貴達、その他にも迫真将棋部の兄

貴達が面白すぎたので、便乗して初投稿しました。

追記：時間があつてお暇なら、最近ハーメルンに追加された読み上げを使用して頂けたら、少し草を生やして頂けるかもしれません。

目次

1.	キャラクター	1
2.	弟子入り志願 ホモチちゃん編	
16		
3.	少女の気持ち	35
4.	将棋乙女の大切なこと	51
5.	おじいちゃんと一緒	62
6.	アヒルの日	76
7.	拝啓、八一お兄ちゃんへ	91
8.	姉弟子との車窓から	103
9.	神無月の夜	114

1. キャラクリ

はい、よいスタート（棒読み）。

最年少タイトル奪取（プロ棋戦でとは言っていない）RTA、はーじまーるよー。

計測開始は「はじめから」を選択してから、タイトルを奪取したところで計測終了。プレイヤーキャラは女性にします、理由は後ほど。

キャラクリは年齢を9歳に設定し後はランダム、成長性が晩成なら再走です。名前は入力速度を考慮して本田萌^{ほんだもゆ}、つまりはホモちゃんです。

フアツ!?

棋風が怪物くんやん、うせやろ？

驚いて取り乱しましたが、ワンチャンあるのでこのまま続行します。

何がどうなのかというと、この棋風は天衣ちゃんとは別ベクトルの変態です。

一手損角換わり、阪田流向かい飛車、または力戦系を指すと、異様なまでに補正が掛かります。こいつすげえ変態だぜ？

ただ、矢倉や穴熊などは、熟練度を高めていないと序盤中盤終盤ガバるので、注意が必要ですよ。

尤も、これはRTAなので、そんな囲いはフヨウラ！
因みに他のステータスはこちら。

名前 本田 萌

年齢 9歳

出身 大阪（福島区）

師匠 なし

棋風 怪物くん

指運 ザコ

成長性 おませさん

メンタル クソザコナメクジ

体力 幼女

プロフィール 将棋が大好きな9歳の少女。独特な棋風のオールラウンダー、相手を翻弄する構想をしている。終盤は、緊張のあまりに王手ラツシユを受けると頓死する事もある。しかし、劣勢の場合に放たれる勝負手は一級品。初恋の将棋は一手損右玉。

メンタルがクソザコなメクジなのが気になりますが、これは補えるのでセーフ。

成長性がおませさん（早熟）で、怪物くん持ちなのは、本当に運が良かったです。

ガバが許されないプレイングが必要ですが、こちとらテストプレイでは完走してるんで大丈夫ですよバツエ取れますよ（タイトル）。

因みに師匠は最初から設定できる人と、出来ない人がいます。

今回は九頭竜八一ロリ王に弟子入りますが、彼は手順を踏まないとロリでも師匠になつてくれません、お前ホモなんだろ？ 俺もソーナノ（ホモちゃん）。

因みにゲームを購入したニキは、師匠に糸谷先生と？ 見先生が特別参戦してるから、よろしくナス！（宣伝）

さて、キャラクター作成を終了したら、難易度をHard、開始年月を2015年10月に設定してスタート。

オーピングが始まりましたね。

折角なので、OPの内にさっき触れられなかった事について説明します。

男性棋士にしなかったのは、最年少タイトルを取る難易度が異様に高いため。

特に、黒塗りの高飛車（相掛かり）を扱う九頭竜八九三四段や、なんだこのおっさん!?! と驚愕する羽目になる棋力を持った名人HB（仮称）と追突し、櫛 創多きゅん並

みの若さと才能を持っていても敗戦する事になります。

特に、この時期のロリ王は竜王戦において、バグっている実力を発揮しています。

どれくらい強いかというと、とある検証動画では、マニュアル操作にしてソフト指しを行っても負けていました。

九頭竜四段「カスが効かねえんだよ（ソフト指し）」

かといって、それよりも前の年度で始めると、全盛期HB（仮称）先生に盤上レイプ！ 野獣と化した名人とされて、どれだけ頑張っても挑戦者決定三番勝負で負けます。

開始2年目からは、ステータスの上げ方次第で、そこそこ戦えるのですが、1年目はどうやっても無理でした。

もし、1年目で勝てた人がいるなら、動画投稿オナシヤス！

次に年度。

2015年なのは、あいちちゃんや天衣ちゃんがまだ弟子入りしておらず、独占できるからです。

八一はロリ王なので、四段時代でも将棋を指して気に入ってもらえたら弟子にしてもらえます。

ロリ王は早熟系の人物に成長補正を掛けてくれるロリ専属調教師なので、その手腕で口（序盤）胸（中盤）お尻（終盤）全てを徹底的に調教してもらおう予定です。

最後にチャート。

今回構築しているチャートは、ロリ王に調教されながらマイナビ女王戦を戦います。この棋戦はアマチュアでも参加可能で、連続で4回勝てれば女流棋士になれます。

今回はRTAなのでこのまま姉弟子に挑戦する予定ですが、一般プレイだとそこから女流玉将や山城桜花、女流名跡を狙う方が難易度は低いです（勝てるとは言っていない）。

さてと、オープニングが終わったので、ようやくスタート。

ホモちゃんは小学生なので、昼間は学校に通わないといけません。

なので、実質的に行動できるのは、午後からのみです。

何か条件を満たしていれば学校をサボれますが、今回は何もなくそのまま学校へ。

すると、自動的に放課後になるので、そのまま将棋会館へGO is GOD。ロリ王に会えるまで、何日もひたすらこれを繰り返します。

2階の将棋会館道場に上がると、普通に将棋を指す羽目になるので、ひたすら一階の売店で何か買う素振りを見せながら待ち伏せします（将棋指しの層）。

現実のプロ棋士の先生に行くと、警察だ！（インパルス板倉）案件なので、気を付けましょう。

因みに、会館道場には8月1日には80%の確率でロリ王が指導対局を行っています（奨励会員の場合でも）。

その日に居ないと、8月10日に居ることが多いです。

8月10日、つまりはロリ王は野獸先輩だった？

申し訳程度に、10月8日にも居る事はありますが、あまり期待できない確率なので、お祈りしながら待ち伏せしましょう。

.....

.....

.....

すういませくん、ホーモなんですけど、まーだ時間掛かりそうですかね？（3時間経過）

さつきから店員の、あのさあ、という視線が刺さり、クソザコメンタルのホモちゃん
は臨界点を迎えつつあります。

このままでは、もう待ちきれないよ！早く出してくれ！（将棋会館から）と、ホモちゃんが敵前逃亡する恐れがあります。

ですので、それを避けるために売店の人に話しかけましょう。

「はいはい、やっと買いたいものが決まったのかい？」

無論、買いたいものなんてないので、差し当たってはロリ王の扇子が売ってないか尋ねます。

勿論、プロ棋士になりたてなので、販売してる筈なのですが、入荷したら一声掛けてもらえる様になります。

「君、八一君のファンなのかい？」

お、どうやらこの店員は、ロリ王と顔見知りの様です。

折角なので、このままお話を続けましょう。

頷くと、勝手にホモちゃんが話を続けます。

何でも、奨励会員ワンコインチャレンジとかいうので、対局経験があるとか。

それで、もしプロ棋士になったら、弟子にしてみらうと約束してるとか。

……ん？

“八一お兄ちゃん、私にいっぱい将棋を教えてくださいって言うてくれたんです”

やめろオ（建前） ナイスウ（本音）

加速確定、皆様万雷の拍手を持ってお迎えください。

につこり笑顔で話すホモちゃんに、店員も思わずにつこり。

ついでに走者もにつこり、みんなを笑顔にするホモちゃんは人間の鏡。

折角なので、11月の将棋世界を予約しておきましょう。

ロリ王の昇段の記が乗っていますので、ホモちゃんのロリ王に対する好感度が上がるようになります。

「おや、噂をすればというやつかな」

店員が指を指しているの、振り向けばそこには我らがクス竜ロリ王の姿が。

勝ったな（確信）。

店員さんにお礼を言つて、直ぐに追いかけてみましょう。

あつ、おい待てい（江戸っ子）

「え、あ、も、萌ちゃん？」

会館玄関口のロリ王は、驚いた風にこつちを見えます。

が、気にせずに話しかけましょう。

ここでは、躊躇なくさつき手にした弟子にして♡、という選択肢を提示しましょう。

「えつとさ、萌ちゃん。」

その話なんだけど……やっぱり考え直してくれないかな？」

なんで？（殺意）

約束を違える人間の屑がこの野郎……。

MUR先輩並みにすつとボケ始めたロリ屑王相手に、躊躇なく泣いてお願いするを選

択し、なりふり構わず懇願します。

弟子にしてくれよな〜頼むよ〜。

「ご、ごめん、萌ちゃん！」

でも、俺なんかより、他に良い人沢山いるからさ。

なんだったら、俺の師匠紹介するし」

えっ、そんなん関係無いでしょ（正論）

ロリ王じゃないとチャートがガバるんだよ、あくしろよ。

「わ、分かった、萌ちゃん。

ここじゃ何だから、俺の家に来て話そうか。

ほら、あそこのマンション、直ぐ近くだろ？」

何とか拒否は免れましたね。

ホモちゃんがロリ王の家にハイエースされる事が決まった、というところで今回はこ

こまでです。

ご視聴ありがとうございます。

本田萌という女の子を始めて見たのは、関西将棋会館の道場でだった。

500円玉を握りしめて、お願いしますと震える声で俺の席の前に座った小柄な少女。

恐らくは親に貰ったお小遣いを片手に、ショートボブの黒髪を揺らして不安そうにこちらを覗く瞳。

一人で来たのだろう、親の姿はどこにも見当たらない。

一回やってみたかったけれど、それでも緊張してしまっているところか。

この娘を見ていると、ふと姉弟子とのあちこちを巡った冒険を思い出した。

大人はおらず、子供だけで歩いた道のりを。

この娘も、もしかしたら今日がその日だったのかもしれない。

だったら、と俺は笑いかけていた。

この娘が、楽しく将棋ができる様に。

昔、師匠が俺と指してくれた将棋の時の様に。

「落ち着いて、軽く深呼吸。」

うん、そう。

それじゃ、指そうか。

手合いはどうする?」

「あ、の。……平手で、お願い、します」

小声だったけれど、その要求は中々に大胆で。

思わず、君もそう来るかと、昔の師匠との一局を思い出し、笑みが浮かんでしまった。

「良いよ、手番はそっちからで」

「よろしく、お願いします」

「はい、お願いします」

そつと角筋を開けた彼女に合わせる様に、三四歩と突き返す。

飛車先を伸ばした彼女に、角交換を行った。

それが、俺と彼女の出会い。

この一手損角換わりこそが、俺と萌ちゃんとの初めの符号だった。

でも、それだけなら、俺はこの娘の事を可愛い女の子としか記憶していなかっただろう。

しかし、彼女は俺の右玉に合わせる様に、相右玉に組んでいた。

真つ直ぐとした目で、なんだか楽し気に盤を見つめて。

右玉を指すのはアマチュアくらい、なんて風説が流れていた時があった。

プロでは、そんなゲテモノ誰も食いやしない、と。

得意戦法の一つであつたそれを、そういう風に扱き下ろされるのは、何も分かつてない癖にと、心がざわつく事が多々あつた。

でも、彼女はそんな事は知らない、どこ吹く風で。

ただ、自分が好きな戦法だからこそ、こうして指しているという幼さが溢れる、けれども純粹な気持ちがあるにはあつて。

この対局は、俺の一方的な攻めが通つて勝つた勝負だつたけれど、それでもこの娘のお陰で三段リーグの真つ最中にも関わらず、将棋が楽しいという気持ちを、思い出すことが出来たのだ。

「あ、の」

「うん？ 何かな？」

だから、だろう。

対局後、負けたのに、彼女は眼を煌めかせていて。

ギョツと、俺の手を握られた時に、この運命は定まっていたのかもしれない。

「こんなに、上手に服（守り駒）を脱がされて、裸（玉）にされたのは初めて、です。

九頭竜先生、が初めてなんです」

「あ、あの、君？」

誤解を招く言い方はやめようか。

あと俺はまだ奨励会員だから、先生じゃないよ」

「ううん、先生、です。」

凄く、凄く、激しくて、鮮やかで、格好良かったから。

あ、の、その、先生の将棋、凄く好き、です」

声は、緊張が解けたからか、普通の声量で、キラキラと目を輝かせて俺の事を見ていた。

それが嬉しくて、照れて、この少女の事が自然と気に入っている自分がいた。

「俺も、君と将棋を指せて良かった。」

右玉指してる人、周りにいないからさ」

「わかり、ます。」

だから、先生と指せて私もうれしい、です。

それと……私の名前、萌です。

名前で呼んで、ください」

「うん、萌ちゃん」

単に名前で呼んだだけで、彼女は蕾が花開く様にはにかんだ。

思わず見とれてしまうくらいに、幸せそうに。

「あの、先生」

「だから、先生じゃないよ」

そう言っても、彼女は聞かなくて。

ずっと先生を呼ばれる事に、何だか居心地の悪さを覚えた俺は、しまいにこんな事を口走っていた。

「それならば、俺が萌ちゃんの師匠になってあげるから。」

それまで、先生は禁止」

そう告げると、彼女は眼を瞬かせ、ぱあつと笑顔を浮かべた。

まるで、夕暮れの帰り道に、父親が迎えに来た様に。

「本当? ……すごく嬉しい、です。」

でも、それなら何て呼べば?」

「そうだね、差し当たっては八一お兄ちゃんの良いんじゃないかな?」

そこからだった、彼女と交流が始まったのは。

三段リーグの翌日、将棋会館に顔を出せば、勝った時にはおめでとうと自分の事のように喜んでくれて、負けた時には何も言わずにそつと手作りのクッキーを差し入れてくれた。

将棋について教えてあげると、それをノートに書き取って、宝物の様に胸に抱いてく

れた。

萌ちゃんと出会ったことで、三段リーグに前向きに走り抜けることが出来た。

……だからこそ、彼女には将棋で幸せになって欲しかったのだ。

未熟な俺よりも、他の人にと口にしたのは。

「泣かせる気なんて、なかったんだけどなあ」

目の前にいる、兎みたいに真っ赤な目で泣きはらした少女を前に、俺はどうしようもなく悩んでいた。

本当に、俺は彼女を、将棋で幸せにできるのだろうか、と。

2. 弟子入り志願　ホモちゃん編

中学生がロリをハイエースしたRTA、はーじまーるよー。

前回はロリ王にホモちゃんが誘拐されたところから。

微妙に悩まし気な顔をしているロリ王ですが、ここは気にせずイキますよーイクイク……。

“八一お兄ちゃんの事、先生って呼んだらダメ、です、か？”

ここで弟子にならないと、再走なんだよな〜頼むよ〜。

ホモちゃんまた泣きそうになっただお、ホラ、見ろよ見ろよ。

「……正直な事を言うと、萌ちゃんがそう言ってくれて嬉しい」

お、好感触、ロリ王のホモちゃんに対する好感度は、中々高いようですね。

こればかりは乱数が物言うのですが、今回はずっと幸運続きです。

お前もしかして、あいつ（ホモちゃん）の事が好きなのか？

「でも、だからこそ。

未熟な俺じゃなくて、師匠や生石さんみたいな立派な棋士に教えてもらってほしいっ

て思ってるんだ」

えっそんな関係ないっしょ。

走者もホモちゃんも、徹底抗戦の構えを見せます。

ロリ王で良いじゃなくて、ロリ王じゃないとダメなんです。

こっちの事情も考えてよ（棒読み）

「……分かった」

ようやく、九頭竜門下最初の試験まで到達しました。

野獣の眼光でロリ王がこっちを見ているますが、別に打ち婦詰め（意味深）をしようとしてる訳ではありません。

「萌ちゃん、俺と一局指そう。」

それで、認められる棋力があつたら、弟子にしてあげるよ」

あ、いっすよ（快諾）

ここは拒否する理由がありません。

試験は、完全にロリ王の胸三寸で決められます。

ですので、勝つ必要はありません。

筋の良さや興味を引く将棋にすれば、笑顔で迎えてくれるでしょう。

ロリで堕ちろ！

という訳で、本プレイ始まって初めての対局パートです。

少し解説しますと、対局パートではマニュアル・オートのどちらかを選択し、対局に挑む事になります。

難易度がeasyの場合は待たしても許されますが、hardの場合はその時点で対局終了し、負け扱いにされるので注意が必要です。

因みに、hardの難易度は……プロ棋士並み。

開発者曰く、AIをチューンしまくり、九頭竜八一が将棋を指しているという状態で持ってきたそうです。

他の棋士も、それぞれに独自のルーチンがあるのかなんとか。

はえ〜すっごい（スーパージAI）。

今作では、プレイヤーキャラクターにもそのAIが適用されており、育てていく必要がありません。

お前を芸術sん……てあげんだよ！

……お前を芸術品にしてやんよ（妥協）

因みにロリ王戦ですが、hardだと待たも駒落ちも許してくれません。

ロリコンの屑がこの野郎……。

走者が指しても、ホモちゃん以上のガバを見せつけるので、ここはオートでお任せに

します。

一応、オート中でもこちらの操作を受け付けるので、イザとなったら盤外戦術でも展開します（暗黒微笑）

それでは、対局開始！

「お願いします」

オツスお願いしま〜す！

流石に先手番は貰えた様で、早速ホモちゃんは角道を開けましたね。

ん？ これは……。

ロリ王が指したのは8四歩。

7八に金を上がったホモちゃんに対して、素早くロリ王も角道を開けました。

これは横歩取りにする気満々ですね、たまげたなあ。

もしかすると、ここから一手損角換わりにしてくるかもしれません。

戦型選択は、どうやらロリ王の手の中にある様です。

……と？

おや、ホモちゃんの様子が何だか変です。

盤上とロリ王を交互に見て、次の手を指そうとしません。

“ 八一、お兄ちゃん ”

おっと、ラジコンが壊れてるのか、勝手に行動してますね。

こういう時は、どこかしらに異常がある場合があるのですが……。

あ、これかあ（メンタル値）。

確認したところ、今の状況に対してホモちゃんのクソザコメンタルが突如として暴走

して恐慌の状態異常を取得していました。

（タイムが）壊れるなあ。

“ 私…… ”

しかし、大丈夫です。

こういう事もあるうかと、きちんと対策を用意しています。

ホモちゃんが何かする前に、マニュアル操作に切り替えます。

そして、そのままロリ王の手をギュツと握りしめましょう。

こうする事で、ホモちゃんのメンタル値が正常化します。

好きなモノ、抱いた気持ちなどのコマンドを選択すると、精神異常を緩和してくれます。

す。

雛鶴あいちゃんは、ロリ王の扇子を持つてるだけでメンタル値を無限回復してくるの

で、長期戦になればなるほど不利になります。

皆様、気を付けましょう。

「も、萌ちゃん？」

いきなりの行動に動揺しているロリ王ですが、そんな事はお構いなしにオートモードに戻します。

メンタル値が安定し……あ、いや、精神状態が高揚になってますね……ままええわ(ガバ)

混乱しているロリ王を放置し、ホモちゃんが指した手は7七角。

阪田流かあ、壊れるなあ(将棋が)。

何かが振り切れたのか、どうあがいても挑発している様な手です。

ロリ王もこの手を見て、クソ真顔に戻ってますし。

「良いよ、乗ってやる」

どこか野獣を思わせる眼光で、即座に角交換したロリ王。

ホモちゃんも、負けじと金を上げて角交換を成立させます。

これは難しい将棋になりそうですね。

解説も難しいので、終盤まで倍速で飛ばすことにします。

因みに、今回ホモちゃんが指した戦法は、阪田流向かい飛車。

3三(7七)に金を上げる悪形から、向かい飛車にする本来は後手番の戦型です。

守り駒の金が上擦ってるので、玉将君解体ショーの始まりや！ と陣形が簡単に崩壊する事もあるので注意が必要です。

つまりは、ホモちゃんのロリ王に対するメスガキムーブだという事です。

ただ、ホモちゃんなら怪物くんの補正が掛かっているので、阪田流でも案外指せるかもしれません。

では、スキップ開始。

………

……

終盤までスキップしました。

それで、ホモちゃんの将棋なのですが……。

やっぱり壊れてるじゃないか（憤怒）

見ろよこの無残な姿をよお（裸玉）

ロリ王陣に噛み付いた後が見受けられますが、残念ながら攻め駒は全て払われた後の様です。

しかも、変態ロリコン野郎は限度を知らず、ひたすらに詰めろを掛けてきます。

いやーもう十分堪能したよ（絶望）

「………萌ちゃん」

何か言いたげなロリ王ですが、まだ投げようとしないうホモチちゃんのガッツに、口を噤んでしまいました。

しかし、ここまです。

鎖付きブーメラン（角の利き付き）を装備した金に、下段に落とされての即詰みです。ポロポロですが、鬼畜ロリ王相手に良く投げず指しました。

これは、メンタル値の成長が期待できます。

よう指した！ それでこそ男（ホモ）や！

“ 参り……ました ”

ホモチちゃん、死にそうな顔をしています、大丈夫だつて安心しろよ。

そのためのチャート、あとそのためのロリコン？

中々ハイレベルの戦いだったので、走者には内容の良し悪しが分からないのですが、今回抑えるべき点は3つで、最低限満たしているから行けるはずです。

1. 好感度 シヤルちゃんのように、高ければ弟子入りさせてもらえます。

2. 棋風 お互いの手筋が親しい程、好感度が上がります。

3. 対局への姿勢 関西勢全般の棋士に言えることですが、最後まで粘って指すとそれだけで評価を上げてくれます。

今回は神様に愛されてる位に運が良いので、余程の事が無い限り弟子入りさせてくれ

るでしょう。

「萌ちゃん、感想戦しようか？」

ほら、ロリ王もめっちゃ笑顔。

これは弟子入り確定ですね、やったぜ。

ロリ王は、ハイライトが消え気味のホモちゃんを抱きしめ、頑張ってくれてありがとうと、頭を撫で始めます。

世間の人から見たら、イリーガルユースオブハンズ判定待った無しですが、ここは幸い二人だけの世界。

ホモちゃんも、また泣き始めましたが、この涙は嬉し涙に変わるのでセーフ。

いいゾコレ（好感度アップ）

ん？ いま玄関の扉空いた音しました？

いや、気の所為ですよ、全部上手く行ってる最中にまさかそんな……。

「八一……：幼女抱きしめて、何してるの？」

あつ、フーン（察し）

お姉さん許して！

「八一お兄ちゃんの事、先生って呼んだらダメ、です、か」

震える声で、藍色の瞳を萌ちゃんは俺に向けていた。

捨てられた子犬の様に悲しげで、誰も他に味方が居ないかの様に。

本音を言えば、直ぐにでも抱きしめて、今日から萌ちゃんと俺は師弟だと言いたかった。

でも、そう断言するには、俺の掌はあまりにも小さい。

まだプロになったばかりの新4段で、公式戦で指したことすらない。

「……正直な事を言うとは、萌ちゃんがそう言ってくれて嬉しい」

普段通りに話せているかなんて、分からない。

でも俺は、出来るだけ大人を装って、そうするのが正しいのだという風に話していく。

実際、俺がそう思っている様に。

「でも、だからこそ。

未熟な俺じゃなくて、師匠や生石さんみたいな立派な棋士に教えてもらってほしいって思ってるんだ」

そう言うのと、はつきりとフルフルと頭を振って「いや、です」と意思表示をした。

普段控えめで、ワガママなんて滅多に言わない萌ちゃんが。

ギユツと、心臓が掴まれたかの様に痛む。

それは、否定せざるを得ない無念さ故か、それとも俺は……。

「八一お兄ちゃん、あの、ね」

袖口をそつと握って、萌ちゃんが掠れるくらいの声で、それでも今までに無いくらいにハッキリと告げた。

「八一お兄ちゃん」で「我慢、じゃない、です。」

八一お兄ちゃん」が「良いんです」

その言葉が、胸の奥まで染み渡っていく。

どこまでも純粹で、暖かさを伴って。

嬉しさがどこまでも湧いてきて、不覚にも俺の意思に反して口が勝手に動いていた。

さつきまでの、思いと裏腹に。

「……分かった。」

萌ちゃん、俺と一局指そう。

それで、認められる棋力があつたら、弟子にしてあげるよ」

言つてから、しまったと思つたけど、もうどうしようもない。

顔を上げた萌ちゃんは、表情を悲壮な覚悟で彩つていたから。

今更、やつぱ今のナシでなんて言えるわけがない。

「絶対、です。

また、嘘だつたら、嫌です、から」

今までの、どの時よりも鋭い目。

拒絶なんて許さないと、萌ちゃんはそのまま将棋盤の前に座つた。

俺も、萌ちゃんの対面に座る。

もう、ここまで来たら、後は指すしか無い。

俺も、萌ちゃんも、ここまで来て引ける筈がないのだから。

「よろしく、お願ひします」

「お願ひします」

萌ちゃんが初手角道を開けてから数手、戦型の選択権は俺の手の中にあつた。

というより、ここまではいつも通りと言つても良い。

何時も、萌ちゃんは戦型を自分で決めようとはしなかつた。

俺に合わせて、ワルツを踊る様に将棋を指す。

定跡から外れてるところもあるのに、それでも俺の手をすっかり離さない様に。

最後は萌ちゃんが俺の足を踏んで（悪手を指して）、上手に踊れなくてごめんなさいとはにかむ。

キチンと形になっていて、俺の無茶な将棋に何時も笑って居てくれた子。

そんな優しい子だから、勝負の世界に向いてないのではと、時折思うことがある。

だから……、

「八一、お兄ちゃん。私……」

声を掛けられ、その不安と恐れが入り混じった瞳を見た時、折れてしまったのかと思っただ。

静かに、けれど美しく咲いていた紫陽花の花を、俺の手で。

でも、それは単なる想像に過ぎなかった。

萌ちゃんは、俺の手をギュツと握りしめてきたのだ。

「も、萌ちゃん？」

多分10秒くらいか、たったそれだけの時間。

マシユマロみたいに柔らかくて、JS（女子小学生）特有の体温の高い手。

その小さな手から、彼女の脈が、鼓動が伝わってきた。

僅かな間だけれど、早く脈打つ、こちらまでドキドキしてしまいそうなもの。

手を離れた時、既に萌ちゃんから不安が消えていた。

決意の漲る、勝負師の目。

そして、萌ちゃんが指した手は……七七角。

俺に選択させない、古の阪田流向かい飛車を目指した定跡。

初めて萌ちゃんが、俺の好き勝手にはさせないと主張した手。

その思いに、気持ちに、心のどこかで火が灯った。

萌ちゃんの誘いに乗らず、3二金と上がれば角換わりの将棋になる。

でも、俺は萌ちゃんの精一杯の決意を、無視することなんて出来なかった。

その一手が、どこまでも嬉しかったから。

未熟な蕾が、花開いた瞬間を目撃したのだから！

「良いよ、乗ってやる」

本気で指そうと決めた。

この子が、全力で応えてくれると、そう確信したから。

俺は、迷わずに角交換に踏み切ったのだ。

だが、俺は勘違いしていた。

勇気を出して踏み切った一手、それは間違いない。
では何を勘違いしてたのか、それは……。

(意外と、苦しい。)

ペースを握られてるな、これは)

思った以上に、萌ちゃんが積極的だったという事。

揺さぶつても崩れず、均衡を保ち続けているのだ。

互いに飛車先の突破を目指す中盤戦。

萌ちゃんの作った馬が、想像以上に煩い。

現状を打破するには、捌きに活路を見出す他なかった。

「なら、これでっ」

飛車先を歩で一発叩き、角のラインに引きずりこんでから、一気に強襲する。

こちらの金も角の利きが外れて馬に当たってるが、このまま圧死するよりかは勝負に出た方が戦えるはず。

幸いに萌ちゃんの玉は、片美濃にすら囲えてない。

戦えるはず、そう考え萌ちゃんの顔を見ると。

「あっ………そっ、かあ」

物凄く悲壮な表情で、盤上を見ていた。

そっかあ、と小さく、けれども何度も呟いているのは、相当に局面を悲観しているからだろう。

このまま進めば、お互いに相手の飛車先を蹂躪して、最終的な駒割りは萌ちゃんの銀得。

決して悪くはない筈だが、そう思ってもっと読みを掘り下げていくと……。

(なるほど、良い変化も見つからない、と)

萌ちゃんの攻めは好調だけど、囲いを崩している間に反撃されれば、手番は自分こちらのもの。

最悪、こちらは清滝玉の早逃げが絶品で、一気に寄らなくなる。

攻めればこちらに駒を渡すことにもなるし、自信が無いのだろう。

でも、もう後には引けない。

萌ちゃんは踏み込んで来て、お互いにノンストップの乱打戦、全力の殴り合い。

そうして、最後に立っていたのは……。

「参り………ました」

呆然とした声で、萌ちゃんは投了を告げた。

最終的に、萌ちゃんは間違えた。

飛車を切つてこちらの囲いを崩壊させたまでは良かったが、それ以上の継続手を見つ
けられず、9八の地点に逃げ込んだこちらの玉を仕留める事が出来なかったのだ。

後は、こちらの攻めが一方的に通るのみ。

でも、萌ちゃんは最後まで抵抗した。

途中、詰める逃れの詰めるを仕掛けていたり、決して諦めなかった。

ポロポロになりながら、齒を精一杯に食いしぼりながら、頓死だけはしない様に必死
に。

けれども、ここまで傾いた天秤はひっくり返しようもない。

お互いに最善手を指したら、萌ちゃんが負けるゲームになっているのだから。

でも、だからこそ、萌ちゃんの必死の戦いを見て、俺は決めていた。

萌ちゃんを、弟子にするかどうかを。

将棋は楽しい、それを思い出させてくれた彼女。

でも、だからこそ将棋の事を嫌いになって欲しくなかった。

プロの世界は、毎日が戦いだ。

奨励会を戦った辛い日々、師匠が順位戦でA級から落ちる度に、ポロポロになって
いった姿。

それを知っていると、安易にプロが良いなんて言えない。

諦めない心、それがどこまでも必要で。

「萌ちゃん、感想戦しようか？」

だから、安心して萌ちゃんにそう声を掛けていた。

俺相手に全力で、それこそ泥塗れになった彼女を誰が拒絶できようか。

今回、萌ちゃんは実力以上の力で指していた。

それは、俺の弟子になりたいという、たった一つの少女の想いで。

一緒にこれから、生活の一部を将棋に塗り潰して行ける覚悟を受け取ったから。

将棋で不幸になる以上に、きっと幸福に慣れると思ったから。

「や、いち……お兄、ちゃん」

ポロポロと、涙を零す萌ちゃんを抱きしめる。

今日から、新たな家族になるこの子を、大事にすると決意しながら。

「頑張ってくれてありがとう。」

すぐく、すぐく嬉しかった」

泣き止まない彼女の頭を撫で、しばらくは抱きしめて上げたままいようと決めた。

せめてこの涙が、笑顔に変わるまでは……。

……

.....

.....

「八一……幼女抱きしめて、何してるの？」

急に、全てを現実に戻す、冷ややかな声を掛けられた。

それは、俺が最も馴染み、親しんだ声。

そして、ギュッと俺を抱きしめて、離さない様にくっついてる萌ちゃん。

……これは、詰んだかもしれない。

3. 少女の気持ち

非情な現実には、迫真将棋部の動画を見て癒やされてました（現実逃避）。
さて、現在は白塗りの白雪姫に衝突したところからですね……。

やべえよ……やべえよ……（タイムが）

「あのお、姉弟子？」

多分ですが、誤解があると思うんです」

「どこが？」

「この子は、決してそういうのじゃなくて」

「合意の上でも、お前はもう犯罪者」

「違いますって！ この娘は今日から俺の弟子になるんです」

「で、四段になったクス先生は、丁稚に入玉しようとしてるわけ？」

「丁稚じゃありません！」

「八一お兄ちゃん……先生になってくれないん、ですか？」

「萌ちゃん。」

「違うから、少し待ってて」

あーもうめちやくちやだよ。

目の前の、ゴミを見るような目でこちらを見ているのは、ご存知虐待お姉さんこと空銀子。

ロリ王が自分以外の女（桂香さんを除く）と居るのを見つけると、まとめてサーチ・アンド・デストロイを完遂しようとする、棋界のユニコーンです。

目を付けられると、イビられすぎてデバフが掛かるという、ロリ王チャート最大の敵。本来なら、チャイムを鳴らしてから入ってくるのですが……引越したばかりだからか、実家感覚で遠慮の欠片もございません、不法侵入ですよ不法侵入！

それにしても、これは玉のガバ逃げ八手の損ですね（致命傷）。

はあく、あほくさ。

いずれ出会うにしても、この状況での顔合わせはまずいですよ！

原作の天衣ちゃんのように、姉弟子と出会う機会が少ない場合、そこまでイビられることはありません。

ただ、あいちゃんの様に、ロリ王との限りなくセンチティブな接触を目撃されると、姉弟子の警戒レベルがバク上げされ、目を付けられた状態になります。

どうしてくれるのこれえ（ガバの末路）

脳裏に再走の文字が点滅しますが、もしかしたら乗り切れるかもしれないので続行し

ます。

“あ、あの、空先生。ごめ、んなさい、びっくりさせて、しまつて。

でも、空先生が、どうしてここに……”

あ（察し）と言つた表情を浮かべるホモちゃん。

それに伴つて、何やら怪しい選択肢が増えました。

これ、いや、もしかすると、何とかなる可能性が、微粒子レベルで存在しているかもしれません。

……覚悟を決めましょう。

お前ら、俺の生き様をよーく見とけよ（やけくそ）

“もしかして、ですけど。

八一お兄ちゃんの恋人さん、なのです、か？”

（彼氏とか……いらつしやらないんですかあ？（ねつとり）

ホモちゃんの問いかけに、絶句しておられますね、これは。

普段のチャートだと、メンタルつよつよの幼女かホモでしかプレイしてなかつたので、クソザコだと謎の猜疑心から奇手を放てるみたいですね。

姉弟子の恋愛センサーがビンビンでいらつしやるよ、続けて差し上げる（追撃）

「そ、そんなわけ無いだろ、何言ってるんだよ萌ちゃん!？」

“ 八一お兄ちゃんは……やっぱり嘘つき、です。

親しくないと、勝手にお家になんて、上がりません”

「だから、姉弟子なんだって！」

“ 言い訳は、空先生が、可哀想、です”

涙目気味のホモちゃん。

無事にクソザコゲージが溜まり、直ぐにでもこの場から逃走して有耶無耶にできそうです。

ですが、それでは自慢の弟子入りチャートが、それじゃ台無しだあ（手遅れ）
ですので、何とか踏み留まって姉弟子に懇願しましょう。

“ 空、先生。私、八一お兄ちゃんの、恋人になりたいんじゃない、です。

あの人の将棋が好きで、好きで好きでいっぱい、弟子にしてくれるって言うてくれて、すごく幸せ、でした。

だから、それだけは……。

何でもしますから、取らないで、ください”

ん？ 今なんでもするって言ったよね？

じゃあヨツンヴァインになるんだよ、あくしろよ。

お、綺麗な土下座、なんか芸術的。

……控えめに言つて、急にロリ王将棋への愛を語り、土下座するロリとかいう構図は最悪かもしれません。

さて、姉弟子の反応は……。

「……そう」

お、無関心か？（願望）

「萌ちゃん!？」

そんなことしなくていいから。

ほら、姉弟子も止めてください!」

「……………」

いやあ、キツイつす（素）

無言で姉弟子に見下される時間、これ即ちロスなので、早くして欲しいですね。

ロリ王、どうにかしろ（無責任）

「小童、八一はこれから忙しくなる。」

4人目の中学生棋士、全部これから始まるところ。

お前が居ると、邪魔」

ダメみたいです（弟子入り）

ホモちゃんももう限界ですし、これは再走ですかね……。

中々面白いチャートになりそうだっただけに、残念でs

「邪魔じゃないです、萌ちゃんは俺を助けてくれました」

おっと。

「三段リーグで戦ってた時、萌ちゃんは姉弟子と同じくらい、俺の事を支えてくれたんです。

それに、この子にも才能はあります。

少なくとも、女流棋士になれる才能は」

ロリ王、まさかの反抗です。

まさか本当に何とかしてくれるとは……お前の事が好きだったんだよ！（大胆な告白はホモの特権）

まだ走れそうです、Fooo→

「その程度なら、居ない方がマシ。

足手纏いになる前に、元いた場所に捨ててくるべき」

「イヌネコじゃないんですから、そんな事出来ませんよ。

兎に角、もう決めたことなんです。

幾ら姉弟子でも、これは撤回しません」

ロリ弟子を守る、ロリコンの鏡がこの野郎……。

さしもの姉弟子も、ロリ王の強い言葉に何を言うか決めかねていますね。

頼む、一年間だけ待ってくれ（女王挑戦）。

後輩（弟子）を庇いすべての責任を負った三浦九段（九頭竜）に対し、浪速の白雪姫、空銀子が言い渡した示談の条件とは……。

「兎に角、駄目」

示談の条件すら提示されませんでしたね。

ねえ！どうなっちゃってんのよ！（マジギレ）

ああああああもうやだああああああ！！！！

「駄目も何もありません」

ロリ王も、これは徹底抗戦ですね、たまげたなあ。

恐らく、姉弟子相手にここまで嘔み付くという事は、ホモちゃんはロリ王に相当好かれています。

ロリっ子RTA的に、ロリ王の好感度が高いのは加速要素ですが、一体二人はどういう関係なのか。

JS研のみんなと同じくらい、庇い倒してくれますね。

「……馬鹿やいち、もう良い。

頓死しろっ、ロリコン！」

姉弟子、頭が血が上ったのか、目が青くなってましたね。

でも、ロリ王ガードからの、怒りの帰宅。

無事（致命傷で）、切り抜けられたようで幸いです。

大幅ロスでタイムが壊れましたが、走者は幸いにも自分だけらしいので、多分これが一番早いと思います（走者の屑）

あと、関係が拗れたので、姉弟子と会うと敵対イベントか関係修復イベントが発生する様になってしまいました。

ただでさえタイムがガバガバなので、姉弟子はタイトル戦までスルー安定で行こうと思います（手遅れ）

なお、姉弟子と友好度が高いロリは、お姉ちゃんと呼んで無茶苦茶ベタバタ出来ます。姉弟子と仲良くなりたいレズネキは、是非お試しください（レズはホモ）。

では、ロリ王が走者よりも優秀であると分かったところで、今回はここまでです。ご視聴ありがとうございます。

八一が家から居なくなった。

中学生で棋士になって、鳥が羽ばたく様に飛んでいってしまったのだ。それだけで、世界が色褪せたように感じた。

何時も一緒だった、二人ならどこまででも行けると思った。

でも、今の私はたった一人で、八一だけが高みへとどんどん進んで。

悔しくて、悲しくて、今まで飛べていた空を羽ばたけなくなつたみたいで、胸にポツカリとした空洞を感じる。

これもそれも全部、私を待たせてくれなかった八一が悪い。

あいつは、翼なんて無くても飛べたのだ。

姉弟子なんて呼んでいても、本当は微塵も敬っていない。

ずっと姉弟子と呼び続けて、意地悪を続けてるだけなのだ。

「銀子ちゃん、大丈夫よ。」

「直ぐに会いに行ける距離なもの、何なら今から会いに行っちゃえば？」

鬱屈としていた私に、桂香さんはそう声を掛けてくれて。

背中を押されるように、私は八一のマンションへと向かった。

いきなり来たら驚くだろうか、それとも喜んでくれるだろうか。

行くなら、何か買っていった方が良いか。

いや、会館から近いなら、イレブンと一緒に食べる手の方が喜ぶか。

折角だし、昇段祝いに奢ってあげても良い。

そう決めて、一直線に八一が引つ越したというマンションへと向かう。

「……」が八一の引越し先ね」

そうして辿り着いたのは、雀刺しを食らった矢倉ぐらいにはボロボロな場所。

安く、直ぐに会館に顔を出せる距離でというのが、ここだったのだろう。

できれば、もう少し良い場所じゃないと、隣に引つ越したいとは思えない。

まあ最悪の場合、私が一人暮らしを始めたら、八一が私の家の隣に引つ越せばいい。

うん、と一つ頷いて、私は扉を開けた。

呼び鈴を押さなかったのは、単純に八一の家という事で気が回っていなかったこと。

後は、少し驚かせ様と、八一の驚いた顔を想像していたからだ。

だから、だから……。

「八一……：幼女抱きしめて、何してるの？」

この光景は、あまりにも予想外だった。

八一が、何かちまつこいのを抱きしめて、頭を撫でている。

盤上での変態ぶりは十分に知っていたが、まさかリアルでもこんなに変態だったと

は。

もしかすると、小学生が好きすぎて、中学生になった私の事はどうでも良くなったのか。

そう考えると、急に家を出ていった辻褄が合ってしまった。

……ぶちこずで、われ。

弟子にするとか意味の分からない言い訳を始めたのが、更に見苦しい。

小学生を侍らせたのが故に、適当な事ばかり言っている様に聞こえる。

——私よりも、そこに居る小動物の方が良いのか。

そう言つてやろうと思つたけれど、流石にそれは幾ら八一でも私の気持ちを察してし

まう。

だから言い出せなかったのに……。

「もしかして、ですけど。」

八一お兄ちゃんさんの恋人さん、なのです、か？」

八一が拾ってきた小動物が、急にそんな事を言い出して焦ってしまった。

まだ違うと口走りそうになり、危うく頓死筋に入りかけたので、思わず口を噤んでし

まう。

「そ、そんなわけ無いだろ、何言ってるんだよ萌ちゃん!？」

「八一お兄ちゃんは……やっぱり嘘つき、です。」

親しくないと、勝手にお家になんて、上がりません」

「だから、姉弟子なんだって！」

「言い訳は、空先生が、可哀想、です」

全力で否定する八一にムカついたが、それでも小動物は勘違いし続けていた。

どうやら、私と八一はセットで居ると、恋人に見えるらしい。

……満更でもないのが、結構腹立しかった。

でも、だからこそ、この小動物の言葉が許容出来そうになかったのだ。

「空、先生。私、八一お兄ちゃんの、恋人になりたいんじゃない、です。」

あの人の将棋が好きで、好きで好きでいっぱい、弟子にしてくれるって言うてくれ

て、すごく幸せ、でした。

だから、それだけは……。

何でもしますから、取らないで、ください」

それは他の誰でもない、八一じゃないと駄目な事だった。

八一の棋風は、玉を固める現代将棋において、その考えに真つ向から喧嘩を売って

くスタイルをしている。

薄く、時には居玉で相手に襲いかかる。

初心者と見間違える戦型で挑むくせに、最後に寄ってないのは八一の玉だ。手品の様な、不思議な将棋。

それに子供が夢中になるのは、分かる話だ。

でも、それをこの小動物は、土下座をしてまで求めている。

心の底から、八一を求めているのだ、こいつは。

それだけで、私にとっては危険だった。

何時しか感じた、万智さんの怖さと一緒のものを、コレからも感じたから。

「小童、八一はこれから忙しくなる。」

4人目の中学生棋士、全部これから始まるどころ。

お前が居ると、邪魔」

さつさと、居なくなれ。

そう思って、正直に小動物を追い払おうとした。

事実であるし、否定のしようもない事柄で。

「邪魔じゃないです、萌ちゃんは俺を助けてくれました。」

三段リーグで戦ってた時、萌ちゃんは姉弟子と同じくらい、俺の事を支えてくれたんです。

それに、この子にも才能はあります。

少なくとも、女流棋士になれる才能は」

けれど、八一は私の言葉でなく、小動物の方を取った。

しかも、私と比較して、同じくらい助けてくれたなんて言つて。

怒りで、カアつと頭に血が昇る。

よりにもよつて、将棋で私と同じくらいに八一の力になっているのが、恐ろしく癪に触った。

しかも、それはつまり、知らない間に八一は私以外の女に現を抜かしていたというこ
と。

それが、何よりも純粹にムカつく。

「その程度なら、居ない方がマシ。

足手纏いになる前に、元いた場所に捨ててくるべき」

私の方が、もっと助けになれるのに。

「イヌネコじゃないんですから、そんな事出来ませんよ。

兎に角、もう決めたことなんです。

幾ら姉弟子でも、これは撤回しません」

でも、やつぱり八一は私の言葉なんて聞かなくて。

「兎に角、駄目」

私のお願いを、何一つ聞いてくれない。

「駄目も何もありません」

キツパリと八一が断言したところで、もう耐えきれなくなった。

八一の顔を見たくないと、その場を後にする。

「……馬鹿やいち、もう良い。

頓死しろっ、ロリコン！」

もうあんな変態の顔なんて、二度と見ない。

そう決めて、私は全速力で、息が苦しくて仕方なかったけれど、家へと帰ってきた。

あんな奴の事なんか、もう知らないんだと、桂香さんに言うために。

「あ、銀子ちゃん、お帰り。

……その様子だと、八一くんと喧嘩した？」

「違う、あんなのと喧嘩なんてしない」

「はいはい、また明日には、顔を見たくなくなってわ」

そんな訳ない、そう言おうとしたけれど、その前に私は桂香さんに頭を撫でられていた。

思わず、顔を見られたくなくて、桂香さんをギュッと抱きしめてしまう。

「違うもん、八一なんてもう知らない」

「でも、会いたいでしょう」

「……別に」

「大丈夫、直ぐに仲直り出来るわ」

桂香さんは、そう言つて私をずっと慰めてくれた。

だから、桂香さんに免じて、顔を見たくないというのは取り消そう。

その代わり、まずはあの小動物を何とかしないとけない。

全部、桂香さんに言いつけてやる。

それで、今回は許してあげよう。

それが、一番いい考えに思えた。

4. 将棋乙女の大切なこと

姉弟子をブチ切れさせたRTA、はーじまーるよー。

前回は無事に、姉弟子を撃退したところから。

姉弟子に逃げられ、苦い顔をしているロリ王ですが、構わずに話しかけましょう。

“ 八一……先生 ”

もう抵抗しても無駄だぞ！

何が何でも、ロリ王にはホモちゃんの師匠になつてもらいます。

ここまですべて失敗したら、バグとして公式凸も辞さない覚悟です（害悪）

“ 責任を取って、ください ”

「うん、今日から萌ちゃんは俺の弟子だ」

やったぜ。

無事、弟子入りの儀は完了しました。

これから、ガンガンロリ王の元で能力値を上げて行きます。

“ うん、嬉しい…… ”

二人は幸せな将棋を指して終了。

経験値のため、今晩は泊まり掛けでロリ王に将棋を教えてもらいましょう！

“先生、今日は寝ないで、沢山、将棋を教えて、下さい♡”

「駄目だよ、教えるのは明日から。」

もう暗くなってるし、今日は家に帰らないと」

良いだろお前、弟子入りの日だぞ（ゴリ押し）

“イヤ、です。”

帰りたくない、先生と一緒にの方が、良い、です”

「こら、弟子入りしたなら、師匠の言うことはキチンと聞きなさい。

親御さんだって心配してるだろうし、帰らなきゃ駄目だろう？」

“してないから、良い、です”

「こら、いい加減にしないと、弟子入りの事は無しにしちゃうよ」

あのさあ……ロリコンの癖に、なぜ拒絶するのか。

やつぱり、歩夢きゆんとデキている可能性が高まりましたね。

“分かり、ました、帰ります。”

また、明日、八一先生”

「うん、また明日」

残念ながら、夜パートでのロリ王特訓は発生しませんでした。

このゲームは、朝、昼、夜と行動パートが分かれていて、朝と昼の途中まで学校に拘束されるので、夜は是非面倒を見てもらいたかったのですが、中々上手く行きませんが、発生したら、することの少ない夜パートでも、経験値が入ってうま味なのですが、無念です。

因みにですが、雛鶴さん家のあいちゃんは、ほぼ毎日夜パートでロリ王特訓が行われているので、1ヶ月でも馬鹿にならない経験値を得ています。

内弟子チャート、無茶苦茶に優秀です。

では、なんでホモちゃんでは内弟子をやらないのかと言うと、特殊条件を満たしていないと、複雑なフラグ立てで時間を食ってしまってRTAに向いていないからです。

あいちゃん以外で内弟子をやる場合、姉弟子に妹を作ってあげるのが最速になると思います（なお、姉弟子に絡まれまくるので、やっぱりRTAには向いていない）。

このシリーズを走り終えられたら、普通の実況プレイとして投稿してみても楽しいかもですね。

さてと、そうこう言ってる内に、家に到着しました。

どうやら、両親は不在のようです。

共働きか何か？（無知）

ところで夜パートですが、今できるのは将棋連盟Live（月間500円）で、プロ棋戦の観戦くらいしかなさそうです。

手に入る経験値も、新定跡が出てないと微々たるものなので、敢えて見る必要はありません。

ですが、今回は両親に弟子入りを告げないと、後に揉め事になるので大人しく棋譜でも待ってましょう。

さて、どの対局が行われてますかねっと、これは……。

『皆さん、ご無沙汰しております。』

名誉玉座資格保持者のHB（仮名）と申します』

どうやら名人の玉座戦、第3局が行われているようです。

『今回調教する若手はTIS（篠窪 大志六段）。

ハンサムなマスクの、筋の良い居飛車党。

まだ21歳のこの青年は、私の調教に耐える事が出来るでしょうか？』

角換わり（4八金 2九飛車型）の将棋ですから、申し訳程度にホモちゃんに必要な経験値が増えます。

バランス調整なのか、棋譜並べなどはあまり経験値にならないのが悲しいですね。

本譜は、もう夜なので終盤に入ってるようですが、どんな局面でしょうか。

H B 玉座（仮名）『シユバルゴ！（7六金打）』

S N K B 六段『何だお前（9七玉）』

H B 玉座（仮名）『3枚の攻めに勝てるわけないだろ！（7七馬）』

S N K B 六段『馬鹿野郎お前俺は勝つぞお前！（4三成桂）』

どうやら、もう受けがない篠窪六段が、最後の攻勢に出てる様ですね。

受け間違えたらワンちゃんといった感じなのでしょうが、流石に玉座が強い。

連続王手をH B 玉が逃げ切つて、篠窪六段が投了しました。

相変わらず、妖怪の様な棋力です。

ロリ王は将来アレに勝つのですから、本当に恐ろしいですね（畏怖）

おっと、丁度良いところで、親が帰ってきたみたいですね。

早速、弟子入りの件について話をしましょう。

“……お母さん、私、プロ棋士の先生に、弟子入りする、から”

「……そう」

“書類が必要になったら、持ってくる、から”

「好きにしなさい」

無関心なのか（困惑）

ホモちゃんも、あまり話したがってませんし、もしかしくなくても親子仲がバツチエ冷えてますねえ。

これはホモちゃんも、家に帰りたくなくなります。

まあ、RTA的に、煩わしさが無いので大歓迎ですが（人間の屑）

そんなこんなで、無事に激動の1日目を終えました。

ここまで長かったです、逆にここからは流れが決まってるので三倍速を多用していきます。

さて、では2日目。

昨日とは違い、する行動といえ、学校が終わった瞬間にロリ王の家に突撃する。

これを毎日繰り返し返します。

経験値の寄りがガバガバなので、これだけでかなり成長してくれます。

では、何かイベントが起きるまで、このまま飛ばしていきましょう（三倍速）。

うん、おいしい！（馬鹿みたいに貯まる経験値）

角換わり、相掛かりを中心に、経験値が増加していきます。

通常の訓練より、二倍近く経験値の効率が良いです。

勿論、角換わりと相掛かりに限つての事ですが、右玉使いのホモちゃんには、それで十分。

オーソドックスに矢倉を指したい場合は、清滝師匠や歩夢きゆんに弟子入すると効率が良いです。

はい、ストップ。

弟子入り一週間目にして、イベントが入りましたね。

ロリ王の家に行くと、お話があると言われました。

恐らくは、弟子入り恒例イベントである清滝師匠からの呼び出し。

姉弟子に連行される場合（あいちゃんの時）と桂香さんから電話で呼ばれる場合がありますが、今回は後者だったようです。

「そういう訳で、一緒に師匠の家に来て欲しいんだ」

どういふ訳だつてばよ。

そういう流れで、清滝師匠の家に行くことになりました。

天衣ちゃんや、メンタルカッチカチ幼女でのプレイならば、拒絶も出来ませんがする意味がない（清滝一門の好感度が低下する）ので、ここは大人しく従つておきましょう。

という訳で、師匠の清滝師匠の家到着です。

ロリ王宅から、一時間も掛からないリーズナブルな立地。将来的に開催される清滝道場は、別け隔てなく色々な戦法の経験値を上げられる聖地です。

発生条件は清滝師匠の覚醒、余裕があれば加速要素になるので出現させたいですね（出現させられるとは言っていない）

「来たわね」

出たわね。

「姉弟子、お待ちせしました」

「……別に、待つてなんかない。」

師匠が話があるって言うてただけ」

お前ツンデレってそれ一番言われてるぞ（青春）

ホモちゃんは、そつとロリ王の背中に隠れました。

好感度はどうせ手遅れですから、今更何も問題ないですね。

「着いてきて」

黒塗りのセーラー服の姉弟子に促されてついに行った部屋には、勿論この二人の姿。

「帰ったか、八一。」

それでそつちが、八一の言うてた本田 萌ちゃんやね。

よう来たね、わしは清滝鋼介。

こっちは娘の桂香や」

「こんにちは、清滝桂香です。

よろしくね、萌ちゃん」

清滝一門揃い踏みです。

それでは、清滝師匠も桂香さんもホモちゃんを育てる上で大事な要素になるので、全力ですり寄ってくからなあ、見とけよ見とけよ（媚を売る）

八一お兄ちゃんが、先生になってくれた。

胸がポカポカ、暖かくなる感覚がする。

初めて将棋を指した日から、ずっと夢を見ていた。

この人の将棋を知りたいと、自分もこの人みたいな将棋を指してみたいと。

八一お兄ちゃんの事を知っていくにつれて、その気持はもつと強くなった。

この人と将棋を指していると、キュツと胸が締め付けられる。

優しくて、格好良くて、不可思議さに溢れている八一お兄ちゃんの将棋。

初めての時から、ずっと魅せられていた。

師匠になってくれると約束してくれて、胸から気持ち溢れそうになった。

一緒に将棋を指す度に、見ているだけじゃ耐えられないと思った。

だから、拒絶された時は泣いちゃって、認めてもらえた時も泣いてしまった。

こんなに、胸の心臓の辺りから、気持ち溢れてきたのは初めてのこと。

八一お兄ちゃんだけが、私の心をいっぱいに埋めてくれたから。

私は、ずっとこの人と将棋を指したいと、そう思いました。

空先生は女流二冠の人。

奨励会でも、中学生で初めて初段に到達した初めての女の人。

その人が、八一お兄ちゃんと遠慮のない関係だと分かった時、それだけで理解した。

この人が、八一お兄ちゃんのお姫様なんだと。

どうしてか分からないけれど、それはすごく悲しくて、切なくて。

でも、私は八一お兄ちゃんと一緒に居たいから、精一杯の勇気で八一お兄ちゃんが良

いです、と告げられた。

初めて会う人に、顔を見てそんな事を言うだけで苦しくて、逃げたくなくなってしまっ

れど、ここだけは、逃げちゃいけないと私も分かっていたから。

駄目と言われた時は、シーツを被って隠れたくなっちゃったけど、八一お兄ちゃんが弟子と言ってくれて何よりも嬉しかった。

空先生がお姫様なら、八一お兄ちゃんは王子様だった。

この時だけは、私の王子様。

嘘を吐いたのも、空先生が恋人なもの、それだけで許せた。

……なんで、許すなんて偉そうな事を、私は考えてるのだろう。

分からないけど、今それはどうだって良いのです。

これから、毎日八一お兄ちゃんに、将棋を沢山教えてもらえるのだから！

それが素敵で、楽しみで、お母さんだってお話出来た。

明日から、良い日が続くと信じられるから。

無条件に、明日の天気は晴れだって、今の私は信じられます（空先生は、やっぱり怖い、ですけど）。

八一お兄ちゃん、ううん、八一、先生。

これからいっぱい将棋を指してください！

5. おじいちゃんと一緒に

では、俺も仲間に入れてくれよう、と清滝師匠に話し掛けましょう！

オツスオツス、汚れ好き（泥沼流）の親父にその娘さん。

これからも末永く、オナシヤス！

“よろ、しく、お願いします”

「うん、挨拶できて偉いわね」

緊張気味のホモちゃんが優しく接する桂香さん、ぐう聖。

いきなり視線を合わせられたホモちゃんはビビり散らしますが、暖かな眼差しで見つめられて目が逸らせなくなっています。

ホモちゃんが男の子だったら、ロリ王同様にここで惚れていたでしょう。

「挨拶くらい、犬でも出来る」

おいヤメルオ！

折角ホモちゃんが馴染もうとしてるのに、それを破壊しに来る人間の層がこの野郎……。

今度巫山戯た真似をしてみろ、ロリ王が女になるMODを入れて二度とこの世界に居

られなくしてやるからな!

ほらホモちゃん、怯えてないで何か言い返して、どうぞ。

……何だこの選択肢は、たまげたなあ。

押さなきや(使命感)

“わ、ワン、ワンワン……です”

自分から語録を言っていくのか(困惑)

しつかり3回鳴いてますね、何か犬っぽくねえな。

「ブフオツ」

「ハハハ、随分しつかりしたお犬様や。

銀子、一本取られたな」

男性陣には何かウケてます、浪速の血が騒ぐのでしょうか。

一方の姉弟子は、更に視線が冷たくなってますが。

「……馬鹿みたい」

「銀子ちゃん、年下の女の子をイジメちゃ駄目よ」

「桂香さんも、コレの味方なの?」

「大丈夫よ、そんなに心配しなくても。

ちゃんと、八一くんも銀子ちゃんの味方だから」

「そんなこと、微塵も聞いてないっ」

桂香さんの論点ずらしに、顔を真っ赤にして反論する姉弟子。

ネットでレスバトルさせると、引つ込みが付かなくなるタイプですね、間違いないです。

“ごめん、なさ、い。”

空先生、ワンちゃん、好き、なんだって、思つて”

「別に、好きじゃない」

非常に不機嫌な姉弟子に、コソツとまたロリ王の後ろに逃げましたね。

タイトル戦までに、この逃げ癖は治すと致しまして、早く話を進めて、どうぞ。

「ところで師匠、今回俺達を呼んだのは当然……」

「ん、せやね。」

今日は、その話をするために来てもらったんやっただわ」

ロリ王、有能。

走者、無能。

それはさておき、清滝師匠がこつちを見えますね。

ソソつと、ロリ王の背中に隠れたままで居ようとしたホモちゃんですが、敢え無く御用となりロリ王に引つ張り出されました。

「こら、俺の師匠なんだから、萌ちゃんにとっては大師匠なんだ。

失礼な真似はしちゃダメだ、ちゃんと顔を見て話しなさい」

“ は、い……清滝、先生。

“ ごめん、なさい”

「次から気を付けてくれたらええよ。

それでな、今回呼んだんは萌ちゃんがどんな子かって知りたかったのが一つ。

恥ずかしがりやけど、案外面白い子で安心したわ」

流石に語録の連鎖は途切れたのか、ヨツンヴァインになることを強制はされませんでした（当たり前だよなあ）

その代わりに、もう一つは、と清滝師匠が話を続けていきます。

「萌ちゃんは、女流棋士になりたいんか？」

それとも、八一と将棋が指したいだけなんか？

怒らんから、正直に言ってみい」

はい来ました、清滝師匠の見極め問答。

これは、ホモちゃんがロリ王に相応しいか、清滝師匠が試すイベントです。

清滝師匠にとって、ロリ王は可愛い弟子です。

しかも、中学生棋士であり、これから飛躍していくであろう才能の塊。

竜王のタイトルを取ったところまで行くと、もうロリ王を一人前と扱っているので無条件に弟子を取るのを認めてくれますが、まだ新人の2015年段階においては親心の方が強いのでこうして弟子の方が試されます。

そして、もう勘付いてる方も居るのでしようが、ここで彼だけにしか興味ないと告げるのは地雷で、それとなくロリ王から遠ざけられます（1敗）

テストプレイ時、メンタル極振り幼女（バイちゃん）の場合では、最終的にロリ王のストーカーと化し、祭神雷と壮絶なレスバを繰り広げて無事に破門されました。

ホモちゃんの場合は引き籠もりになりかねないので、ここは大人しく違う選択肢を選びましょう。

“愛して、ます。

八一先生の将棋を。

だから、八一先生みたいな将棋で、私は、勝ちたい、です”
大胆な告白はホモちゃんの特権。

ここでは、勝ちたいとか、闘いたいなど勝負師の感性を擦る言葉がベターです。

清滝師匠も、成程なあと頷いてくれてるので、悪くない反応だと言えるでしょう。
「八一、しっかり育ててやりなさい。

自分の事が大変やからって、弟子を粗末にしたらあかんで」

「っ、はいー!」

勝ったな(確信)

無事、清滝師匠のお眼鏡に叶ったようです。

かなり優しい声で、そのままホモちゃんに話しかけてきます。

「憧れは大事や、その人に近づきたい気持ちは何よりの力になる。

だから、大切に胸に抱えるんやで。

そうしたら、指す時は一人でも、気持ちは二人分や」

“は、はいっ!”

好感度が上昇中、はつきりわかんだね。

まあ今回は、ホモちゃんの清滝師匠に対する好感度上昇の方が美味しいです。

これで、面と向かって普通に会話が出来るようになりますから。

今後は定期的に清滝師匠に甘えたりしながら、じっくり師匠の覚醒を待ちましょう。

「ツチ」

何か舌打ちが聞こえた?

なんのこったよ(すつとぼけ)

取り敢えず、この場においては姉弟子や桂香さんより清滝師匠が大事です。

ロリ王の弟子になると、ダダ甘になりますからね、清滝師匠。

「でも、アレやな。」

まさか40代で孫ができるとは思わなかったわ」

“ 孫? ”

「弟子が取った弟子を孫弟子っていうんだ。」

だから、師匠は萌ちゃんのお爺ちゃんって感じかな」

“ おじい、ちゃん…… ”

口で転がすように呟くホモちゃんに、清滝師匠「デレツデレですね、やっぱりなあ。」

「お爺ちゃんと呼んでもええで」

「もう、お父さん。」

もうすぐ50だからって、調子に乗らない。

「ごめんね、お父さんがちよつとアレで」

“ そんなこと、ないです。”

おじいちゃん、居ないから嬉しい、です。

おじいちゃん先生って、呼んでも良い、ですか? ”

「おお! ええよ、わしは今日からお祖父ちゃん先生や!

桂香、赤飯を炊け。

いや、寿司でも取るか? 」

「……まだお米炊いてないから、良いけど」

無事、媚を売れたところ（J S リフレ）で、今回はここまでです。
ご視聴ありがとうございました。

出前の寿司が届き、皆が台所に移動した後。

部屋には、俺と師匠の二人だけが残っていた。

師匠に、八一は少し残れと言われたのだ。

「まだ、萌ちゃんを研修会には入れてへんのやな」

「はい、まだです」

師匠の問いかけに、ハッキリと答えた。

そう、萌ちゃんは、いわゆる育成機関である研修会に登録していない。

そこに登録して、初めて師弟として公式に登録されるのだけど、それをまだ行っていない。

だから、俺と萌ちゃんの関係は、心の繋がりだけのもの。

正式に、弟子入りをした訳ではないのだ。

「理由は？」

だから、それを師匠が気にするのは当然のこと。

暗に、萌ちゃんは才能があるのかということも、尋ねてきている。

研修会入会には、最低でもアマチュア二段クラスの棋力が要だ。

それに届いてないなら、厳しいのではと心配してくれている。

でも、それは全く問題ない。

独特すぎる序盤だけど、萌ちゃんは既にアマ四段くらいの実力はある筈。

なら、どうして手元においたままなのかと言うと……。

「萌ちゃんの将棋は、俺に似ています。」

全く一緒、なんて事はないですけど、棋風はかなり似通ったところがあります」

「八一と一緒、なあ」

「そんな微妙な顔をしなくても……」

まあ良い、それは。

ちよつと引つ掛かるけど、それよりも俺が伝えたいのはその似ているところだ。

「萌ちゃんの将棋は、ハッキリ言って筋が良いとは言えません。」

研修会でも、そこを咎められると思ってます」

「でも、お前はそうは思っていない、そういうことか？」

「いえ、ハッキリ言って悪いと思ってます」

怪訝そうな顔をする師匠に、でも、と言葉を続ける。

萌ちゃんの将棋は、それだけでは無いのだということ。

その部分が、今は必要であると

「けど、その筋の悪さが、最後で捲り返す怪力を生み出しているんです。

悪い中でどう戦うのか、それが萌ちゃんの中で今まで養われてきた将棋です」

今まで萌ちゃんと将棋を指していて、気がついたこと。

それは、独創的に見る者を驚かせる序盤だけではない。

終盤で、普通感覚では決して見えないであろう筋を、見つける事が出来る能力。

最適解ではないのかもしれない。

けれど、相手の感覚を狂わせる一手。

勝負師の感性が、そこにあったから。

「言いたいことは分かった。

しばらくは、手元に置いて育てたい理由も。

でも、組み立ての悪さが癖にならへんか？」

「大丈夫です、萌ちゃんは素直ですから。

現状でも、俺と将棋を指す中で、生じるズレを修正してきてます。

もしかしたら、あと少しでかなり化ける可能性もありますよ」

まだ指導を初めて一週間だけれど、萌ちゃんからは感じるのだ。

誰も真似できないような、見ていてワクワクする将棋を指せる、その才能を。

だから、この子を育てたいと思った。

誰でもない、この俺の手で。

想像以上に、高いところまで飛ばたける。

そんな確信が、俺にはあるから。

「弟子のデキがエエと、そうなるのは分かる。

けど、そのニヤけ面は気持ち悪い」

「え、あ、すみません」

でも、師匠もさつき、孫が出来て喜んでたじゃん。

その言葉を、グツと堪える。

我慢できる範囲では、弟子は師匠を立てるものなのだ。

「取り敢えず、大丈夫やと思ったら直ぐに申請しなさい。

萌ちゃんも、これから伸びるには経験が必要や」

「はい、勝つことが、将棋を強くなる何よりの条件ですから」

その言葉に、師匠は頷いて立ち上がった。

「みんな待つてるから、行くか八一。」

折角やし、後で萌ちゃんと指してみてもええな」

「良いですけど、萌ちゃんは矢倉を指せませんよ」

「ん？ だったらどうしてるんや」

「矢倉には、雁木で対抗してますね。」

五六歩を突かないで、腰掛け銀にするのがお気に入りみたいです」

「……ホンマに大丈夫なんか？」

「大丈夫です、萌ちゃんの玉は鰻みたいなものですから」

深いため息を、師匠は吐いた。

そんなところまで、わざわざ似なくても良いって事だろう。

でも、仕方がない。

俺が弟子に取ったのは、そういうところが良いと感じた、本田萌という女の子なのだから。

「……………」

「……………」

「二人共、もう少しでお吸い物が出来るから、ちよつと待つててね」

桂香さんの声に乗って、お吸い物の匂いが漂つてきている。

それ以上に五感に訴え掛けるものではなく、静けさが場に満ちている。

理由は勿論、話す気がないから。

こつちから話しかける気は無い、向こうも同じ。

だったら、場が静まり返るのは当たり前のこと。

なので、桂香さんが戻ってくるまで、静かなまま……だと、思っていた。

「空、先生」

だから、呼びかけられたのは、少し意外で。

何、と冷たく応えた。

「好きな、動物、さん。なに、ですか」

……意味が分からなかった。

どうしてそんな質問なのか、弟子入りがどうのという話をするのではないのか。

どことなく、昔の馬鹿だった八一を思い出し、少しイラツとした。

「ごめん、なさい。」

ワンちゃん、好きじゃない、って、言ってた、から」

無言で居ると、小動物は勝手に自己完結してペコリと頭を下げた。

もしかすると、これは馴れ合いをしようとしているのか。

もしそうなら、一つだけ言っておこうと思った。

「まだ、認めてない。」

弟子を取るのは、八一には早すぎる」

それだけ告げると、余計に縮こまって口を噤んだ。

とても、勝負の世界ではやっていけなさそうな、気の小ささ。

ここに居るのは、ただ八一への思いだけで辿り着いたから。

本当に、邪魔で、危険。

間違はなく気持ちだけは本物で、折れないだろう。

私には、良くそれが分かっているから。

「八一の馬鹿、頓死しろ」

誰にも聞こえない声で、小さく恨み言を呟いた。

6. アヒルの日

清滝一門はファミリーみたいなもんやしなRTA、はーじまーるよー。

前回は無事に、清滝師匠に取り入ったところから。

ホモちゃんも家族が増えたみたいで、嬉しいダルルオ!?

そういう訳で、これからも一ヶ月に一回ほど清滝師匠の家に行きます。

ホモちゃんもメンタルが弱いので、しっかり大人に頼って伸びてもらいましょう。

清滝師匠の金言は、それだけでメンタル値を上昇させてくれます。

桂香さんも将棋に関わることで、時折デバフを掛けてきますが、上手くいったらこちらメンタルを強固なものにしてくれます（原作の釈迦堂女流名跡との対局みたい）。

清滝親子は、二人揃って精神的に頼りになる一門の誇りです。

まあ、基本はロリ王の下で特訓が第一なのですが。

では、今日も今日とでロリ王の部屋に突撃します。

そういう訳で、加速開始（3倍速）

さて、ひたすらホモちゃんとロリ王が（盤上で）絡み合ってる間に、ロリ王特訓について説明致しましょう。

ロリ王特訓は、最初の内は駒落ちでの対局と詰将棋しか選べません。

ですが、ロリ王との絆が高まったり、ホモちゃんの経験値が上がってくると、また別の選択が出来たりイベントフラグが発生したりします。

例えば、一門研究会、棋士室での検討など、ロリ王特訓で出来ることが増えます。

イベントなどは、行動範囲にゴキゲンの湯が追加されるなどして、捌きのマエストロこと生石玉将のところで、振り飛車を教えてもらえたりします。

まあ、ホモちゃんは四間に振るとガバリのアーテイストと化すので、原則行く必要はありません。

ん？ 3倍速が等速に戻りましたね（予定調和）

「萌ちゃん、今日はお出かけのよ」

はい、イベントです。

いつも通りロリ王の家に行くと、ロリ王は似非ベレー帽を被り、財布をポケットに突っ込んで立ってました。

見た目の風貌的には、今からゲーセンに行くイキリ中学生そのものです。

“ おで、 かけ？ ”

「うん、今日は新世界の方まで行こうと思ってる」

新世界……あ（察し）

天衣ちゃんイベントで印象深いあそこですね、間違いない。

“ お金、持ってきてきてない、です ”

「お金は俺が出すし、心配しなくていいよ」

分岐の中の一つに、あそこで経験値を稼ぐチャートもありますし、まま、ええわ。

そういう訳で、出かけましょう。

因みにここで拒否すると、ロリ王のテンションが下がるだけで、何時ものロリ王特訓に戻ります。

好感度が下がらない、ロリコンの鏡。

それはさておき、到着です（ゲーム特有のキングクリムゾン）

目の前には、ガラス張りの将棋道場。

はい、皆様ご存知『双玉クラブ』です。

プレイヤーの中では、真剣ゼミと呼ばれているB級戦法の聖地ですね。

「今日はここで将棋を指してもらおうよ」

“ 八一先生と、指したらダメ、ですか？ ”

「今回は、ここにいる人達と指して欲しい」

“ ……分かり、ました ”

ここまで来て、ロリ王と将棋を指す意味は無いですからね、しようがないね。

ホモちゃんには悪いですが、こちらの注文に従ってもらいましょう。

そういう訳で、ほらいくどー（入店）

「子供2枚でお願いします」

クソ無愛想な席主に金を払いましたが、周りを見てホモちゃんビビり散らかしてますね。

ボロクヤニ臭い店内、平然と舌打ちが聞こえ、中には持ち駒を手に隠したまま見せないおっさんの姿も。

一部では、相振り飛車を指してる爺さん達が、居飛車をボロクソに罵倒しながら指してますからね、会館通いのホモちゃん的には世紀末そのものでしょう。

“ ……八一、先生 ”

「指してきなさい」

“ ……はい ”

「それと、これ。」

これを対局する時に、相手に見せなさい」

“ チョコ、レート？”

「チョコの包み紙だ。」

中身は……チョコみたいなものだから、気にしなくていい。

負けたら、それを相手の人に渡すんだ」

“ ??? 分かり、ました？”

「うん、それじゃ、いつてらっしやい」

チョコの包み、大きさが丁度500円玉くらいですね（すつとぼけ）

無知プレイですね、間違いない。

まあ、真剣すると聞いたら、ホモちゃんの場合、メンタルをそれだけで崩しそうです

からね。

このまま、知らない方が幸せなのかもしれません。

では奥の方に行つて……お、いました。

アロハシャツを着ている、バーコードハゲのオッサンです。

今回は、このオッサンでホモちゃんを鍛えます。

すいませへええくん！

“ あ、の……お願いします”

ホモちゃんがチョコの包みを見せると、オツサンに舌打ちされましたが、座れと促されました。

この時点でホモちゃんにデバフが掛かっていますが、ご安心を。圧倒的なスピード感で、何回も指す内にそんなの忘れるから。

ん？ 何回もって言葉、気になります？

まま、そう焦らないで、このままご覧ください。

「3切れだ」

“ ……え？”

「何だ、問題あるのか？」

“ ……ない、です”

「なら、俺が先手番だ」

さつきからポンポン、振り駒もせずに決めてますね。

お前一番態度悪いって言われてるぞ。

ま、知っててホモちゃんの相手をさせるのですが。

因みに、3切れとは、3分切れ負け将棋の事で、持ち時間3分を使い切ったら負けという、スタイリッシュアクション将棋のことです。

では、対局開始！

“よろしく、お願いします”

「フンッ」

ホモちゃんの挨拶も、平然と無視してきますね。

将棋指しの屑が、この野郎……。

ホモちゃんがチェスクロックを押すと同時に、オッサンは飛車先を突いて、ホモちゃんも間髪空けずに角道を開けます。

更に飛車先を伸ばされ、ホモちゃんも角を3三に上げて、ここまで来ると角換わりか力戦居飛車の将棋になる感じですね……普通ならば。

ですが、普通に指しやがらないのが、この双玉クラブの常連客の特徴。

2六飛と、ふわりと飛車を浮きました。

“縦歩、取り?”

ホモちゃんも訝しげながら、4二銀と上がります。

3六飛と回られて、一步掠め取られても、仕方ないという後手番横歩取りの精神ですね。

ですが、今回はホモちゃんの読み通りに進まない将棋です。

関係ねえんだよ、そんなの!　と言わんばかりに、オッサンは9六歩と突きました。

……皆様方の中に、唐突に頭痛が覚えた方がいらつしやったら、法廷まで申し立ててください。

はい、恐らくはご想像の通りです。

ホモちゃんが飛車先を突くと同時に、オッサンは九七角と上がりました。

“何、これ……”

それから手数が続いて、オッサンはある意味で異形の陣形を取ってます。

はい、被害にあつた方は中々忘れられないであろう、アヒル囲いの時間がやって来ました。

ホモちゃんも、この陣形には思わず絶句。

この囲いは、金銀を薄く自陣に広げて、駒台にある駒達を打ち込ませない様にする陣形です。

一言で言えば隙きのない陣形ですが、逆に言えば攻撃意欲に乏しく、相手が攻撃してくるか隙を見せるまで手待ちする待機戦術です。

なので、普通の将棋ならば、理想的な攻撃陣を引いた相手に潰される悲しき囲いなのです……が、3分切れ負けになつてくると話は別です。

特に初見では、どこから手を付けたら分ならず、この様になります。

“じ、時間が、たりない！”

陣形が膨張し、陣地ごと相手に突撃しているホモちゃんですが、残り時間は後10秒です。

局面的には、圧倒的にホモちゃんが有利に見えますが、相手は30秒ほど時間を残しており、即詰みもないので、もうこれは仕方がない状況です。

アヒルのオツサンが指したところで、チェスクロックがピーと甲高い音を出します。ホモちゃん、無残な時間切れです。

だからこんなんじや将棋になんねえんだよ（棒読み）

「遅いなあ、嬢ちゃん」

オツサン、渾身のドヤ顔です。

初見刈り、3切れ、アヒルと揃い、危ないクスリに手を出しています。

お陰で、プレイヤー間では似非トンパ呼ばわりされています。

“……もう一回、お願いします”

取り敢えず、今日はこの人に勝てるまで何回も挑戦します。

何でかつて？ この人が一番ここで、メンタル値を鍛えてくれるからです（遠い目）

ホモちゃんも、結構頭に来てるみたいで、将棋盤にのめり込んでますね。

将棋は冷静さを失った方が負けるのですが……それも経験になりますから続行します。

……

……

はい、負けました。

半ギレ気味のホモちゃんは穴熊に潜りましたが……ホモちゃんが穴熊指してもガバるだけだろ、いい加減にしろ！

続けて3局目。

……

……

今回のホモちゃんは矢倉でしたが、こつちもやつぱりガバって詰ませ損ねました。

ミスが多すぎんだよね、それ一番言われてるから（憤怒）

あのお、まーだ時間掛かりそうですかね〜？

流星にそろそろ勝って貰わないと、時間の收拾がが付かなくなります。

大きく深呼吸して、吐いて、そう。

ロリ王の事を考えて、良し。

冷静になりましたし、4度目の正直で行きましょう。

2度あるガバは3度あるとも言いますが、多分4回も続かないと信じて。

……

……

じゃあ今までのちかえしをたつぷりとさせて貰おうじゃないか（勝勢）

はい、無事にグイグイと敵陣に食い込み、時間もほぼ互角で既に勝つてるようなものです。

ホモちゃんのノータイム指しが炸裂している時点で、もう読み切つてるといつても過言ではないでしょう。

「クソッ」

アヒルのオッサンは駒を投じて、無言でチヨコの包みをこつちに投げてきました。

無事に勝利することが出来ましたね、良かったよかった。

まあ、このおじさん自体は、天衣ちゃんが相手にしたパンサーと比べると大分格落ちな相手なので、勝って当然な勝負ではありません。

では、何故負け続けたのかというと、慣れない3切れでの闘いであることと、見慣れない陣形だったということです。

ホモちゃんは相手を詰まそうとするけど、オッサンの方は切れ負け狙い。

同じルールでの闘いではなかったから、噛み合つてなかったというのが真相ですね。

最終的に、ホモちゃんの目が慣れて、どこを攻めれば良いのか分かってきたので、無事に勝てたようです。

大駒を捌かない、耕すように前進しながら、早指しで勢いよく指す。適応さえできれば、後は何とかなるものです。

「中々、才能あるじゃねえか、クソガキ」

“ オジサンは、凄く楽しくない将棋、でした”

「ツケ、とつとと家に帰っちまえ」

はい、無事に勝てたので、今日はここまでと……おつと？

LEVEL UP!

メンタル クソザコナメクジ↓ぎーこ♡ に変化しました。

やったぜ。

将棋の内容に夢中になってたので、その他の事が気にならなくなる。

いい傾向です、このまま盤外戦術に強くなつて欲しいですね。

では、改めまして、レベルアップもしたので、今日はここまでとします。

ご視聴ありがとうございました。

「お疲れ様、萌ちゃん」

「はい、疲れ、ました……」

双玉クラブからの帰り道。

八一お兄ちゃんと一緒に歩くだけで、不思議と足が軽い気がする。

あんまり、歩いたりするのは得意じゃないから、少し不思議な感覚。

寒いからと繋いだ手が温かくて、もしかしたらそのお陰かも知れない。

八一お兄ちゃんの手、不思議な棋譜を紡ぐ魔法の手。

だから、心がこんなにポカポカするのもかもしれません。

八一お兄ちゃんの手は素敵です、誰よりも暖かく感じるから。

「それにしても、アヒル使い相手に結構苦戦したね。」

もしかして、見るのは初めてだった？」

「初めて、でした。」

変な格好で、落ち着くまで、大変、でした」

「そっか、ネット将棋とかで、ああいう人と当たったことはないかな？」

「早石田なら、沢山指したことは、あります」

「まあ、3切れあまり指さないなら、そういうもんか」

こうして、八一お兄ちゃんと将棋の話をするのが楽しい。
好きなお話を、憧れの人と出来るのは、凄く幸せなこと。
最近知った、大切なこと。

「八一先生、は指したこと、あります？」

「アヒルを？」

あー、姉弟子に無理やり指させられた事なら、ちよつとだけ。

切れ負けすると、耳元で呪詛を吐くから無茶苦茶怖かったなあ」

「そう、ですか」

嬉しそうに、懐かしそうに、姉弟子と口にする八一お兄ちゃん。

どこかが、チクツとする。

でも、笑ってる八一お兄ちゃんは、好き、だから。

嫌じゃないけど、ちよつとだけ苦しい。

「うん？ 萌ちゃん、どうかした？」

ギュツと、八一お兄ちゃんの手を握っていた。

温かい、誰よりも熱い手。

将棋盤の上で、情熱を生み出す神様みたいな手。

でも、今だけは、将棋の手でも、空先生の手でもない。

私が握ってる、私と手を繋いでくれる、二人の手。

「八一お兄ちゃんの手、温かい、です」

「もう10月も後半だからなあ。」

そろそろ、防寒着とか用意しないと」

「今は、大丈夫、です」

「ここら、風邪を引いたら教えてあげられないだろうに」

「気を付け、ます」

何時までも、今日みたいな日が続きますように。

どこかの神様に、届くか分からないお祈りをした日。

お家に着いた時、何となく、手を洗いたくなくなかった。

7. 拝啓、八一お兄ちゃんへ

アヒルは将棋の淫夢くんだったRTA、はーじまーるよー。

前はメンタルが“ぎょこ♡”になったところから（メスガキかな？）

さて、今回もロリ王に調教してもらいにイキますよーイクイク。

今日も絶好の角換わり日和です（いつもの）

腰掛け銀！ 棒銀！ 早繰り銀！ とKBSトリオならぬKBHコンビで角換わりを学びます。

やっぱロリ王くんの……稽古を……最高やな！（経験値大）

良かったら、ホモちゃんの手作りクッキーでも食べてください。

「お、今日もクッキー、作ってきてくれたんだ」

“ 美味しいって、言ってくれるのが、嬉しいです、から”

こちら、ホモコロリの代わりに、好感度が入っております。

また明日もお願いしますね！

「そうそう、まだ伝えてなかったけど、明後日にデビュー戦があるんだ。

東京に前泊しなきゃいけないくて、悪いけど明日から稽古はお休み」

うせやろ？

“ そう、なんですか？ ”

「うん、俺が居なくても、しつかり将棋の勉強をするんだよ」

……まま、ええわ。

ロリ王特訓が一番良いのですが、仕方ないので清滝師匠の家にも明日は行きましよう。

ホモちゃんも、残念がるより喜んでますし、その他のイベントを今の内に進めるのがお得ですね。

“ 楽しみに、してます。 ”

頑張って、ください”

「うん、萌ちゃんのためにも、絶対に勝つから」

“ 約束、です ”

指切りげんまんまでしちゃってますね、これで負けたら笑っちゃうぜ。

まあ、皆様ご存知の通り、7割方負けるんですけどね（白目）

負けた場合、ロリ王は負けたショックで一週間失踪するのですが、経験値が勿体ない

のでこちらから迎えに行きましよう（飽食）

“ おじいちゃん先生、桂香さん、こんにちは ”

「待つとつたよ、萌ちゃん」

「いらつしやい、今日はゆつくりしていつてね」

RTAなので、ゆつくりできないです（ガバから目を逸らしつつ）

そういう訳で、清滝師匠の家にやって来ました。

姉弟子は対局で居ません、デバフ掛けられないので、ラッキーですね。

「今日はわしが教えてあげよう、座りなさい」

“ お願いします、おじいちゃん先生 ”

クツソにこやかな清滝師匠、田舎中年はスケベなことしか考えないのか（風評被害）
実際のところは、孫に構ってる感触で、のんびりした気配を感じます。

A級順位戦に在籍してた頃なら厳し目に指導してもらえますが、陥落してからの
清滝師匠は緩めになってます。

ぶつちやけ、いつ引退してもおかしくないの、注意が必要です。

ソフト指し幼女ニキの動画では、幼女に負けたショックで引退する清滝師匠が見られ

ますが、普通にチャートが壊れるので無論行いません。

「ホンマに雁木ねんやなあ……矢倉、指さんか？」

“ 矢倉、むずかしい、です ”

「でも、指せへんと、強くなれんよ」

“ 薄い方が、気持ち良い、です ”

「すっかり影響されとるなあ」

矢倉なんか必要じゃねえんだよ！（力戦派）

玉が硬いと安心して指せますが、ジャンキーなホモちゃんは着衣プレイ（硬い囲い）は好きじゃないみたいです。

プレイ方針にも即してますし、いいゾコレ。

“ 負け、ました ”

はい、経験値ゲット（なお、ロリ王よりも少ない模様）

でも、力戦居飛車の経験値は足りてないので、良しです。

「うーん、金駒がないからといって、自陣飛車を打ち込むのは、やっぱり苦しいで」

“ 逃げ、損ねちゃい、ました ”

“ ここで、早逃げした方が、良かったです、か？ ”

「うん、そっちの方が粘れたと思う。」

……やっぱり、矢倉に囲わんか？」

“次は、上手く逃げ、ます”

天を仰ぐ清滝師匠、将棋に関してはホモちゃん頑固みたいです。

ホモちゃんの囲いはガバガバなので、相対的にバランスが取れてると思います（意味不明）

「そこまで言うなら、仕方ないな。

取り敢えず、これで勉強しい」

ホモちゃんの露出癖は矯正出来ないと感じたのか、清滝師匠が本を一冊渡してくれました。

お、これは……。

“逃れ、将棋？”

「萌ちゃんは知らんか？」

詰将棋じゃなくてな、自玉に掛かった王手から逃げる本や。

中々面白いから、ゆっくりやってみ」

ラッキーですね、これは。

逃れ将棋とは、清滝師匠が説明してくれた通りの、王手から逃げ続ける本です。

ホモちゃんの棋風にピッタリあってますし、何より頓死する確率が下がるので結構良

いアイテムです。

走者は難しくて積みました、冴えんなあ。

“ ありがとう、ごさいます ”

「うん、しつかり勉強するんやで。」

……そう言えば、八一はどうなったかな」

気が付けば、もう夕方。

対局も佳境か、既に着いているかもしれない。

さて、今回はどうなってるか……あ（察し）

『この局面で九頭竜が投了した。以下、同玉、2七飛までの詰み。終局時間は17時11分、消費時間は九頭竜2時間12分、山刀伐が2時間58分。終盤に発生した7手詰を逃すという、ある意味で鮮烈なデビューを果たした九頭竜。山刀伐が先達としての意地を見せた。勝った山刀伐は次戦で神鍋五段との対戦となる』

ダメみたいですね（予定調和）

悪手アンド悪手の悪手会と化していた、ロリ王のデビュー戦。

最後に詰みがあったのを見逃し負けるといふ、悲しみしか無い対局でした。

「八一め、山刀伐君を舐めたな」

“ 八一、先生…… ”

清滝師匠の苦い顔に、ホモちゃんも心配にしています。

このイベント後、ロリ王はシヨツクのあまりサーフ系ボートビルダーに弟子入りするイベントが発生してしまいます。

そのまま放置すると、サーフシヨツプに骨を埋める海の男エンドにたどり着いてしまうので、注意が必要です（一敗）

「悔しいやろうけど、ええ薬になった筈や。

次からやな、次から。

ああ、そうや、萌ちゃんご飯食べていくか？

一緒に食べてくれると、嬉しいんやけど」

“……はい、食べます”

場合によってはその次すら無くなるから、注意が必要です。

まあ、姉弟子が迎えに行くので、大抵の場合は大丈夫なのですが。

2、3日帰ってこないと、心配で授業をサボっても探しに行ける様になるので、それまで加速いたしましょうね。

………

……

はい、清滝師匠の家に通うこと3日、遂にホモちゃんが我慢の限界を迎えました。

もう許せるぞオイ!!

“ 八一、先生。

まだ、帰って、来てくれ、ません”

「負けるっていうんは、悔しいことや。

自分の考え、指し手、積み上げてきたもんを、否定されるって事やからな。

大方、勝つ言うて出かけて、萌ちゃんに合わす顔が無いんやろ。

構わへん、ほつといたら帰ってくるで」

清滝師匠、ここら辺は案外放任主義です。

自分も負けたら放尿しますし、多少はね？

“ …………… ”

はい、選択肢が出ました。

ここは迷わず、明日八一先生を探しに行くを選択しましょう。

もう許さねえからなあ？

さて、そういう訳で翌日、駅前にやって来ました。

ホモちゃん、何故か所持金が多めなので、何とか関東まで遠征できます。

帰りは……ロリ王が出してくれるって、バツチエ大丈夫ですよ！

そういう訳で、何食わぬ顔で電車に乗りましょう。

昨日の内に予約していた新幹線の席に、座れば完璧です。

成し遂げたぜ。

後は、このまま東京まで行きましょうねー。

今、八一は神奈川県茅ヶ崎に居ますが、情報集めないとそこまで辿りつけないからね、しょうが無いね。

さて、では電車の中で、清滝師匠に貰った逃れ将棋でも解いて……ん？

「……小童、ここに何してる」

フアツ!?

八一お兄ちゃんが、帰って来てくれない。

寂しくて、悲しくて、何だか落ち着かない。

おじいちゃん先生は、すぐに帰って帰って帰って言うてる。

でも、悔しくて、悲しくて、帰ってこれないかもしれない。

辛い将棋、だったから。

負けるのは悔しい、おじいちゃん先生の言う通り、だから。

「八一、お兄ちゃん……」

寂しいです、早く帰ってきて……。

そう思って、もう4日目。

2週間の間、ずっと一緒に居てくれて、私はその2週間が1年分ぐらいの価値があったから。

一日千秋って言葉を、学校で習った事がある。

その気持ち、凄く分かった。

八一お兄ちゃんが居た秋は、銀杏のように輝いてたから。

八一お兄ちゃんの居ない日が、凄く長く感じるから。

「将棋、指したい……」

八一お兄ちゃんと、二人で。

私の将棋は、八一お兄ちゃんの為のものだから。

私を好きにして良いのは、八一お兄ちゃんだけだから。

お願い、します。

早く、帰ってきてください。

そう、お祈りしたけど、八一お兄ちゃんは帰ってきてくれなくて。

このままだと、ずっと帰ってきてくれない様な、そんな気もした、から。

「見つけ、なきや。

八一お兄ちゃん、迎えに、いかないと」

ぽっかり、胸に穴が空いたままだと、生きていけない、から。

八一お兄ちゃんが、私には必要で、八一お兄ちゃんと一緒に、将棋を指したいから。

ずっと、いつかの為に貯めていたお金を、私は躊躇なく使うことに、した。

今は、それ以上に、目の前のことが大切だから。

「待ってて、八一お兄ちゃん。

会いに、行きます」

東京までの道を予約して、次の朝には学校に行かずに、行動していた。

新大阪まで行って、新幹線に乗り込む。

怒られないか、とか、呼び止められるかも、とか、心配だったけど、大丈夫だった。

ホツと、安心して、ふにやふにやって、なっちやった。

良かった、誰も私のこと、気にして無くて。

だから、その声を聞いた時、自分の想像以上に、胸がキュツとなつて、ドキドキが止まらなくなつてしまった。

「……小童、ここで何してる」

振り向けば、そこには誰よりも綺麗で、どの女性よりも将棋が強い、女の人が立っていた。

知っている、その声も、その視線も。

「空、先生」

上手に、頭が回らなくて、オウムさんみたいに、空先生の名前を、呟くことしか出来なかった。

どうしよう……。

8. 姉弟子との車窓から

うわあ……これは姉弟子ですね。

これは空女王で、ああ、こっちは空女流玉座ですね。

間違いない。なんだこれは……、たまげたなあ（白目）

“空、先生”

これにはホモちゃんも思わず絶句、悪夢の様なシチュエーションです。

テストプレイではこんな事は無かったのですが……痛いですね、これは痛い。

兎に角、言い訳して何とかしなければいけません。

ここで叩き出されたら、指した手（行動）が空振ることになりますので。

ホモちゃん、どうにかしろ（無責任）

“その、東京に、八一、先生、を迎えに、いきま、す”

「馬鹿なの？」

う、羽毛、端的な一言にホモちゃんも痺れてますね。

ホモちゃんも正直に話すぎって、それ一番言われてるから（遠い目）

やべえよ……やべえよ……。

「……フン」

ん？ 何でしょう、これは。

不思議なことに、それ以上の追求を受けませんでした。

それどころか、ホモちゃんの隣に腰を降ろしましたね。

お前、ホモ（レズ）なんだろう？（勘違い）

と、それはさておき、電車が動き始めてしまいました。

死ぬほど重い空気が漂ってますが、どうしようもありません。

持ってきた逃れ将棋も読めませんし……どないしてくれんねん姉弟子お前（八つ当た

り）

「二六歩」

唐突な符号、これは……。

“……三四、歩？”

「二五歩」

脳内将棋ですね、間違いない。

なんの気紛れか、驚いた事に構ってくれてますね、たまげたなあ。

それも、恐らくは昔ロリ王と電車に乗ってた時にやっていた類のもの。

デレ期？ ロリ王以外の男にデレないのは、姉弟子がレズだったから……？

兎に角わかりませんが、これはチャンスです。

好感度を上げて、ホモちゃんの姉弟子に対する苦手意識を取っ払いましょう。

………

………

………

“うー、ん?”

「………10秒………20秒………1. 2. 3. 4——」

“1四、角です”

戦型としては、矢倉戦なのですが、姉弟子は最近流行りの急戦調（入城しない形の矢倉）に対して、ホモちゃんは菊水矢倉に構えての戦いです。

姉弟子がまさかの角香交換からの、二三の地点に香を振り込んでホモちゃんの囲いをガバガバにしていきます。

ホモちゃんの矢倉は欠陥住宅って、それ千年前から一言言われてry。

ただ、ビックリした事に、意外と指せてますね、これ。

勿論、ホモちゃんの大劣勢は変わらないのですが、焦って符号を間違うなんて事もないです。

姉弟子が秒読みを始めるといって、畜生ルールを追加した時はどうなることかと思いま

したが、手数が進んでも符号を間違えないのは立派なものです。ですが、残念ながら、そう長くは続きません。

秒読み付きの目隠し将棋なんて、悪手を指さない方が無理なのです。姉弟子が4三角を指したところで、ホモちゃんが投了しました。

“無理攻め、かと思つて、ました”

「盤がない将棋で、下手に受けようとするから間違える。

将棋星人じゃないから、脳内将棋盤はあまり頼りにならない。

分かりやすい形じゃないと、指し手が混乱する」

“将棋、星人？”

おっと、本当に珍しい。

姉弟子が、分かりやすく教授までしてくれています。

もしかすると、感想戦のつもりなのかもしれないね。

“空、先生。

将棋星人つて、なん、でしょう、か？”

そこに突っ込んでいくのか（困惑）

まあ、中々に面白い表現ですからね、聞きたくなるのも分かります。

「……深く深い、盤面の宇宙からやってきた、侵略者よ」

少し苦い顔をする姉弟子に、ホモちゃんもそれ以上は聞く気にならなかつた様です。そのせいか、暫しの無言が続き、何とも気まずいです（姉弟子の好感度がガバガバ）喋ってよ、怒ってんの？（棒読み）

「そろそろ着くわ」

そうこうしてゐる内に、到着みたいですね。

姉弟子に続いて降りたらそこは、日本の中心である東京駅。

将棋会館のある千駄ヶ谷、淫夢民の聖地である下北沢に通じる要衝です。

中々の人で目が回りそうですが、人波に吞まれたら最後、何故か秋葉原行きの電車に乗ることになるので注意が必要です（1敗）

“空、先生……”

ホモ特有の口下手さで、待つてと口に出せませんが、何とか追いかけます。

目指すは同じく将棋会館ですので、ここは大人しく姉弟子に着いていきましよう。

シレッと姉弟子の乗る電車に便乗乗車すれば……到着です！

千駄ヶ谷よ、私は帰ってきた！（初来訪）

“空、先生、ありがとう、ごさい、ました”

「別に、行き先がお前と一緒だっただけ」

“それでも、です。”

嬉し、かった、から……”

無言で去る姉弟子、好感度バグかなんかでデレたのでしょうか。

本当に謎ですね……まま、エエわ（ガババーバ・バーババ）

何が日本一（強い女流）や、世界一やぞ（感激）

原因は後ほど調べる事にして、ここからはロリ王訪ねて3000里くらいの始まりです。

下手に外をほつつき歩いてると補導されるので（1敗）、将棋会館で情報収集に務めしよう。

すういませくん、ホーモなんですけど、誰かいらつしやりませんか。

「アポロンが中央に座する刻にコロッセオ将棋会館に現れるとは、中々に見所がある少女よ。

如何なご用事か、このゴッドコルドレンが要件を承ろう」

歩夢きゅん!? 売店のカウンターで何してるんですか、不味いですよ!

八一が何を考えているのか、分からない。

三段リーグ入りをして、その将棋が更に怪奇なものになって、私が抱いた感想はそれだった。

置いていかれる焦りと、圧倒的なスピードで強くなつていく才能への嫉妬。

昔は私の方が強かったという記憶と、現在との乖離。

私は八一と将棋が指したいのに、八一の耳にはそれが届かない。

ただ、八一の才能を私は知っていたから、苦虫を噛んだように、それを受け入れていた。

八一は、将棋の星の王子さまだつて、私も、師匠も、知っていたから。

……ただ、最近の八一の事が、もっと分からなくなっていた。

弟子を、取つたのだ。

いつもこちらの顔色を伺っている、小さな小動物。

八一が家を出ただけでも事件なのに、それ以上のこと。

いつも八一はソレに構うようになり、余計に距離が遠くなった気がした。

それどころか、いつの間にか家にまで出入りする始末。

アレを認めたら、もう取り返しがつかないのでは、と。

そんな気もして、私が居た筈の八一の隣が、取られた気がして……。だから、私は拒絶していた。

最後の一線だけは、私が守らないと、そう決意して。

「空、先生」

だから、こうしてこちらを呆然と見上げるコレに構ったのは、ただの偶然に過ぎない。一人の旅、海原で遭難しているみたい、中段に逃げ出している玉みたい、そんな心細い心配がそこにはあつて。

無視しようとした、けど……。

その寂しい感触を、私は知っていたから。

そのまま去るのは、無責任な気がして。

仕方なく、私はソレに関わった。

少し会話をすれば、八一を東京まで迎えに行こうとしているらしくて。

馬鹿だった、アホだった……少しだけ、昔の八一に似ていたから。

気紛れに、手慰み程度に、勝負を吹っかけた。

八一にするように、八一にされたみたいに。

寂しそうなこいつに同情して、なんて気持ちは一切ない。

ただ、暇つぶしの代わりに。

「一四、角です」

上からの攻撃に強い菊水矢倉を、二四の拠点から無理やり踏み潰して、それでもコイツは抵抗した。

棋力は、まだまだ遙かに格下。

ただ、投げずに綾をつけようとする姿勢は、どこかに関西棋士の血を感じて。

そこだけは、少し認めても良いと思えた。

「……参り、ました」

受けも、こちらの詰みも見つからずに投了。

感想戦で目隠し将棋のコツに触れて、会話の中でつい口からあの単語が溢れた。

「将棋、星人？」

将棋星人、81マスの宇宙からやってきた、人類とは感じてるものも見えてるもの違う、盤上の侵略者。

人類の私と、五感以外の第六感を持っている彼らには、棋力の断絶がある。

それが、私と……八一の差。

「空、先生。

将棋星人って、なん、でしょう、か？」

「……深く深い、盤面の宇宙からやってきた、侵略者よ」

何時になったら、私は空に手が届くのだろう。

宇宙を、息継ぎなしで、渡れるようになるのだろう。

私は、八一に追いつけるの……。

考えても、そんな事は分かりっこなかった。

「空、先生、ありがとう、ごさい、ました」

「別に、行き先がお前と一緒だっただけ」

「それでも、です。」

嬉し、かった、から……」

東京に着いて、なんの疑いもなく私に善意を感じてるのだろう小動物。

私は、それ以上相手にしなかった。

必要以上に、距離を詰めようとは思ってないから。

ただ、対局が終わったら、私も探しにいかうと、それだけを決めて。

……本当に、八一のバカ。

バカ八一の弟子も馬鹿だから、手間が二倍になった気分。

迷惑を掛けられたから、帰ってきたらいっぱい八一には十倍以上にして、返してもらわないといけない。

「どこにいるの、八一……」

9. 神無月の夜

連盟の売店で、ギアスでも掛けてきそうなポーズを取っている、我らが歩夢きゆん。不法侵入ですよ不法侵入！（天海春香）

“あ、あの？”

ホモちゃんももれなく困惑、引いてますね、これは……。

どうも今日はランダムイベントに見舞われますが、ままええわ（寛容）

それに、どちらかと言えば、美味しいと言えます。

何故かというと、それは歩夢きゆんと（繋がりが）出来ると、彼の妹と年齢が近い場合、条件を満たせば、のじやロリ狐耳娘将棋幼女の馬莉愛たそを紹介してもらえるからです。

因みに条件は、歩夢きゆんと仲の良い棋士と知り合っているなので、もう達成済みです。

ロリ王と歩夢きゆんは、ズツ友だよ（はーと）

そういうことで、ロリ王の居場所を聞きましょう。

「ほう、噂には聞いていたが、本当に弟子を取っていたか。

……それで、八一は現在失踪中であると」

興味深そうな視線に、ホモちゃんも思わず引け腰。

大丈夫だつて、同類（ロリ王好き）だから、仲良く出来るつて。

「まあ、良い。」

では、考えてみるでしょうか。

八一は大阪に、帰ってきてはいない。

知り合いにも、会いたくはないであろう。

故に、実家にも帰っていない。

では、奴はどこに行つたか、少女よ、分かるかな？」

無駄に完璧な無駄なポーズを挟みつつ、優しく問いかける歩夢きゆん。

一分もロリコンの気配を感じさせない、お兄さん属性の問いかけです。

流石の師匠萌え、序盤中盤終盤隙がないですね。

“……分かり、ません”

少し考えてから、首を振るホモちゃん。

これだけでは、分かる訳がありません（当たり前だよなあ）

「では、もう少し、ヒントを与えるでしょうか。」

行く宛も無いのだから、あとは己の心が惹かれる場所に、向かうしか無い。

「将棋の關係のない場所だ」

“……海、です?”

「なんで分かるんだ(困惑)」

歩夢きゅんも、満足気に頷いてないで、事情を説明してどうぞ。

「そう、海。」

他に寄る辺を持たなくなつた八一は、自らの名前にこそ居場所を求めるはず」

“えつと、あ、の、八一先生、海、行きたいって、言つて、ました、から”

ホモちゃんの言い分が、ホモの滑舌ヌルよりも分かりやすかつた(こなみ)

そういう訳で、海の方へ向かいました。

歩夢きゅん、ありがとナス!

“神鍋、先生、ありがとう、ございました”

「フツ、礼には及ばん。」

何れ、まみえようと伝えてくれさえすれば。

我が名はゴツトコルドレン歩夢、頂タカへと飛翔する者だ」

然りげ無く名前を訂正する、中二病患者の鏡。

啞然とするホモちゃんを他所に、高笑いをしながら去っていきました。

「店番は良いのか(困惑)」

……あ、戻ってきましたね。

「少女よ、何か求めるものはあるか」

“……ない、です”

「ならば往くが良い。」

師とは、己が太陽とも呼ぶべき存在。

弟子とは、その高みに手を伸ばすイカロスたる存在なのだ」

領いて、ホモちゃんは走り出しました。

ところで、首都圏の海水浴場つて、千葉が多めな印象ですが、八一がいるのは神奈川県の茅ヶ崎。

たどり着けるか、心配な方がいらっしやるかと思えます。

が、安心してください。

八一への好感度が高いキャラだと、何故か八一の場所へ吸い込まれるようにたどり着く（通称、逆探知ロリ王）事が可能です。

“待ってて、八一、先生”

そういう訳で、3倍速開始！

……

……

……

はい、時刻は午後8時。

辺りは真つ暗、10月にもなると、海水浴客もこの時間帯では疎ら。

現在位置は、神奈川県茅ヶ崎市のとあるビーチ。

……知ってましたが、どうしてたどり着けるのか本当に謎です。

恐らくは、ホモ特有の超能力か何かなのでしょう（ホモちゃんはノーマル）

“みつ、けたっ。八一、せんせえ！”

おっと、勢いよく、ホモちゃんがロリ王に抱きつきましたね。

大胆な行動はホモの特権。

そしてロリ王、人間のクズにしてロリコンのクズがこの野郎……。

戻ってもらわないと、チャートが壊れちゃうでしょ、反省して！（自分本位）

「萌ちゃん……どうしてここに」

“ いっぱい、探し、ました。”

毎日、寂し、かったからっ”

ホモちゃんの言葉に、オロオロしていたロリ王も、思わず抱きしめ返しました。

ホモちゃん視点では美しい光景。

ただ、傍から見ると、アロハシャツ着た中学生が幼女を抱きしめる姿は、何ともイリー

ガル。

でも、ロリ王を逮捕させる訳にはいかないので、程々で離しましょう。

さ、ホモちゃん、離れて♡

……あれ、操作を受け付けない？

“どっかに、行っちゃ、嫌、です”

「ごめん……そうだよな。」

俺には萌ちゃんが居て、責任があるんだ。

逃げて、ごめん。

次からは逃げない、いや、勝つから」

イイハナシダナー。

ところでホモちゃん、そろそろ離れてください、オナシヤス！

……なんででしょうねえ、ホモちゃんに無視されます（困惑）

良いだろお前、成人の日だぞって話なのでしょか。

「八一い、あくしろー」

おっと、遠くから、上半身だけやたら体格が良い人が近づいてきましたね。

……ロリ王、不味いですよ！

「も、萌ちゃん、ちよつと離れてくれるかな？」

“ だめ、です。

離して、あげません”

あ（察し）。

「うっそだろお前！」

「店長、違うんです！」

「この娘は俺の弟子で……」

「弟子い？ もう許せるぞオイ！」

はい、ロリ王が淫行犯逮捕となったところで、今日はここまでとします。

ご視聴ありがとうございます。

負けた。

負け、た。

負けた負けた負けた負けた。

『やっぱり天才は普通の人間じゃ絶対にはありえないポカをするようだね！』

いやあこの見落としては天才ですよ天才！

やっぱり関西一の天才は違う！

普通はありえないもんこんなポカ』

.....あ。

「うわあああああああああああああああああああああああああああああああ
走った、走って走って、とにかく走った。

涙と鼻水が止まらず、大声で叫びながら、目的地なんてなく、ただ前へと。
情けなくて、恥ずかしくて。

脳裏に過る少女に、合わせる顔がなくて。

簡単な詰みがあったのに、逃してしまった。

逆転できそうだったのに、自分から手放してしまった。

自分の驕りで、棋譜を辱めてしまった。

昔、人間失格の冒頭文を読んで、首を傾げた事があった。

“恥の多い生涯を送ってきました”なんて言葉。

二手指しで二歩をしても、ここまでは言わないだろう、と。

ただ、今なら.....分かる。

この言葉は、自分だけじゃなくて、誰かへの気持ちを背負ってないと、出てこない言葉なんだ。

人生で唯一のデビュー戦を不意にし、萌ちゃんの期待を裏切つて最悪な醜態を晒した。

師匠を、姉弟子を、歩夢すら、俺はこの棋譜で裏切つた。

それが、何よりも耐えられなくて。

強い衝動を持ちながら、全速力でどこまでも走り続けた。

「うわあああああああああああああああああああああああああああああああ」

気がつけば、辺り一面は暗く、真っ黒な海が広がっていた。

ここから大阪湾まで、泳いで帰らなきや、とそのまま海に飛び込んで……。

「この頃の若い奴はなつてねえよなあ。」

こっから先に進むと、お前もう生きて帰れねえな?」

近所のサーフショップの人に、自殺と勘違いされて引き上げられた。

俺、何やってんだ、と正気に戻つたのは、サーフショップの店長にアイステイーを飲

ませてもらった後のこと。

店長に何故、と理由を聞かれて、泳いで大阪に帰ろうとしました（小声）と答えたら、「バカじゃねえ？」

と、至極尤もなことを言われてしまった。

けど、それ以上の言及もされず、俺は店長の元に置いて貰えることとなった。

ポロポロの制服と革靴で、何かを読み取ってくれたのかもしれない。

ただ、働かざる者食うべからずという言葉があつて、バイトとして働き始めることになつた。

今は将棋のことが辛くて、考えたくなかつた俺にとって、渡りに船な提案だったから。

ただ、そのバイトの最中でも……。

『八一、先生』

『八一』

二人の、俺を呼ぶ声がした。

気の所為だつて分かつてるのに、無視しようとすればするほど、余計に気にしてしまふ。

……本当は、分かつてる。

俺自身が、将棋から離れられない事は。

けど、二人にどんな顔をして会いに行けば良いか、全然わからない。

最初で最後のデビュー戦で、最後まで頑張れなかったから。

『負けと知りつつ、目を覆うような手を指して頑張ることは結構辛く、抵抗があります。でも、その気持ちをなくしてしまつたら、きつと坂道を転げ落ちるかのようにな、転落していくんでしよう』

昔の、師匠が名人戦の記者会見で言つた言葉だ。

また、頑張りますと、微笑みを添えながら。

あの時の師匠は、誰よりも格好いい、世界一の師匠だと思つた。

その気持ちを、俺は負ける瞬間まで忘れていた。

苦く、苦しいものが、口の中に広がつた感触がする。

「おいにやんにやんにやん！」

また仕事サボつてるな、つべこべ言わずに来いホイ」

「す、すみません！」

仕事にも身が入らず、怒られてばかりな始末。

これじゃいけない、そう思いほつたを叩いて気合を入れる。

そうだ、俺はもう将棋のことは忘れるんだ。

じゃなきゃ、こんな気持ちをずっと抱えて生きていくのは、辛すぎるから。

店長みたいな、サーフ系ポデビルダーを目指すんだ！

「みつ、けたつ。八一、せんせえ！」

胸に抱いた決意は、そのたった一言で、もろく崩れ去ることとなった。

俺の胸に飛び込んできた少女、この娘のことを、俺は良く知っていたから。

「萌ちゃん……どうしてここに」

「いっぱい、探し、ました。」

毎日、寂し、かったからっ」

俺の中でとても大切になった女の子。

その娘が、俺の胸の中で、ほろほろと泣いている。

ズキリと、胸の傷が疼いた。

「どっかに、行っちゃ、嫌、です」

負けて、目の前が真っ暗になって、色々な事が見えなくなっていた。

そうだ、俺にとって萌ちゃんは、大切にしようと思った、大事な愛弟子なんだ。

師匠が俺にしてくれた様に、今度は俺が萌ちゃんにしてあげようって。

そんな大事なことを、自分の事で精一杯になって、忘れていた。

負けた時の情けなさとは別の、不甲斐なさが胸に過ぎった。

「いめん……そうだよな。」

俺には萌ちゃんが居て、責任があるんだ。

逃げて、ごめん。

次からは逃げない、いや、勝つから」

秋風に晒されて、萌ちゃんの体は冷え切っていた。

けど、萌ちゃんの心は、俺を求めてくれる気持ちには、どこまでも暖かい。

オレの心まで、暖かなモノで包んでくれる様に。

萌ちゃんと頑張りたい、この娘の為になりたいと、心の底から、強く思う。

もしかすると、これが師匠になるという気持ちなのかもしれない。

強く、もう間違えないと、萌ちゃんを抱きしめた。

「八一い、あくしろー」

店長の声が、遠くから聞こえた。

ふと、今の状況を俯瞰すると、小学生と抱き合っている構図の俺がそこには居て……。

あれ、まずくね？

そう感じたのは、棋士としての読みだったかもしれない。

「も、萌ちゃん、ちよつと離れてくれるかな？」

「だめ、です。」

離して、あげません」

必至が解けない!?

不味い、このままじゃ（人生）詰む。

けど、萌ちゃんを無理やり引き剥がすなんて、俺には出来ない。

どうすれば……（心の中の）師匠、どうすれば良いですか！

（諦めて投了やな）

「うっそだろお前！」

現実是非情だった。

店長は萌ちゃんに抱きつかれてる俺を見て、心底たまげてる様だ。

「店長、違うんです！」

「この娘は俺の弟子で……」

「弟子い？ もう許せるぞオイ！」

その後、店長の誤解は解けたが、罰として（なんの罰なんだ）ブーメランな海パン一丁で撮影会をする羽目になってしまった（なんで？）

もしかしたら、これが将棋の神様の天罰なのかもしれない……。

萌ちゃんが手で顔を隠しながら、チラチラとこっちを見てたのが、何とも辛い一時だった。